

公立大学法人

和歌山県立医科大学

教育研究開発センター

平成 23 年度

事業実績報告書

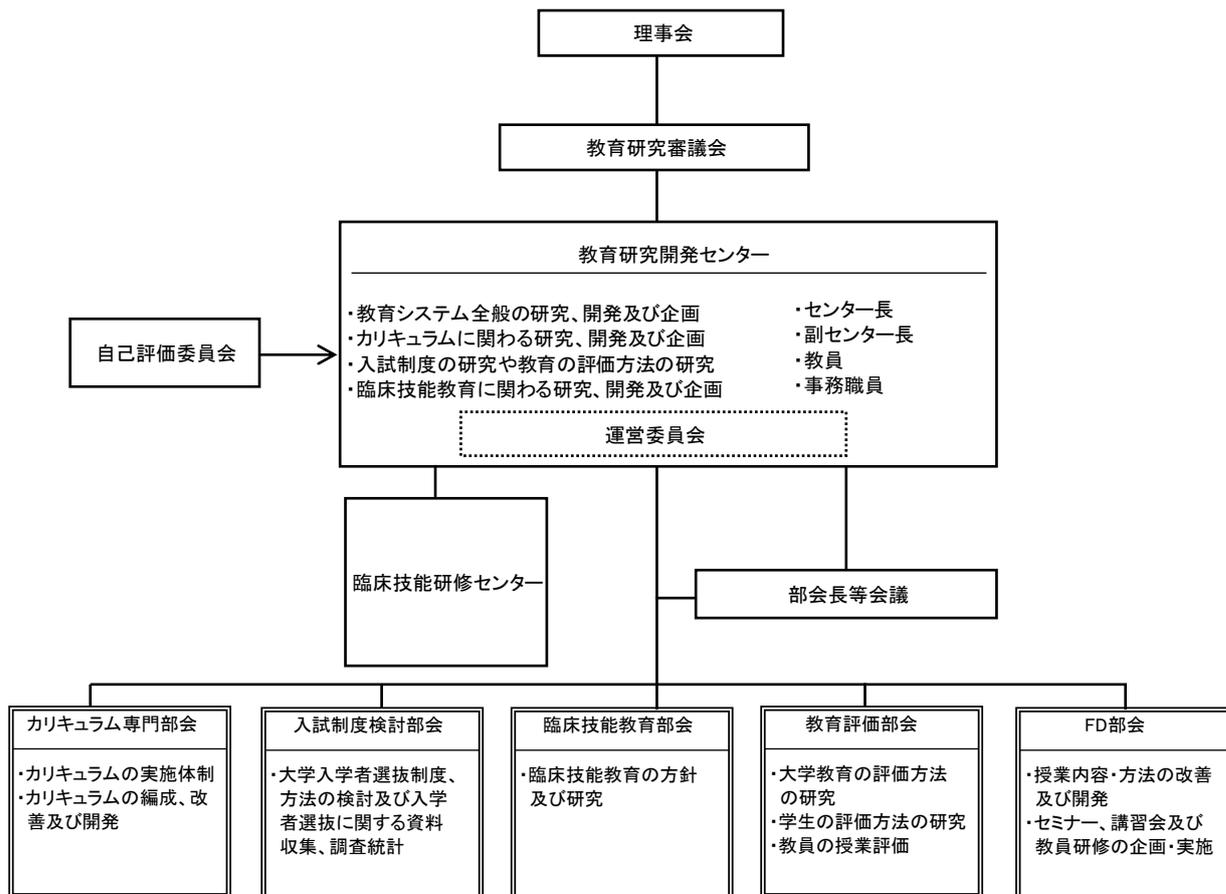


Center for  Development
Educational Research and

目 次

組織図	2
刊行にあたって	3
1. 教育研究開発センター	
規程・要項	
(1) センター規程	4
(2) 運営委員会委員	7
(3) 部会委員	8
2. 平成23年度事業実績	
1. 医学部	
開催した部会一覧	11
開催したFD一覧	14
和歌山SPの会	17
取り組んだ事業	18
大学教育学生支援推進プログラム【テーマA】報告会	26
学生実習について	27
発行した冊子等一覧	30
日本医学教育学会総会での発表内容	31
2. 保健看護学部	
開催した委員会一覧	33
開催したFD一覧	35
発行した冊子等一覧	37
取り組んだ事業	38
学生自主カリキュラムの取組	40
3. 臨床技能研修センター	
(1) 運営規程	43
(2) 利用方法	47
(3) 備品一覧	49
(4) 利用実績	52
(5) 和医大臨床技能サークルの活動内容紹介	59
4. ホームページの案内	
◆ 教育研究開発センターホームページ	60
◆ 臨床技能研修センターホームページ	61
◆ 大学教育学生支援推進プログラム【テーマA】ホームページ	62

和歌山県立医科大学
教育研究開発センター組織図



平成 23 年度実績報告書の刊行にあたって

教育研究開発センター長 羽野卓三

和歌山県立医科大学教育研究開発センターは平成 23 年度で 6 年目に入りました。開設当初は Problem-based Learning の導入、ケアマインド、地域医療マインドの育成に注力してまいりました。一方で医学部の学生定員は 60 名から 100 名まで段階的に増員されてまいりましたが、学生定員の増加は単なる量の変化に留まらず、学生および修学状況の質の変化をもたらしております。本学の学生選抜の方法は、多彩な方法を採用しております。とくに推薦は一般枠、地域枠、県民医療枠に分かれ、一般枠は県内生、卒業予定者、地域枠は県内生、卒業予定者と前年度の既卒者、県民医療枠は全国の高校を対象とし卒業予定者に限ることとなっております。また前期入学者も一般枠と県民医療枠に分かれております。現時点では推薦入学者の多くは成績上位者であり、入学選抜の方法についても評価できる内容となっています。ケアマインド、地域医療マインドの育成については 1 年次の保健看護学部との共通授業であるケアマインド教育、老人福祉関連施設での実習、2 年次の保育所実習と障害者福祉施設実習、5 年次の医療問題ロールプレイなどを通して継続的に行っております。また、医学教育のグローバル化に対応するため、臨床実習の期間を 5 年生の 5 月からの 44 週間の実習期間を 4 月当初からの 50 週間に延長し、さらに 23 年度から 52 週に延長いたしました。また、最後の 2 か月は 4 週間の実習とし、学内および県下の 16 病院での学外研修を行える体制をとりました。さらに、国際化に対応するため米国および欧州の 5 大学で約 1 か月の臨床実習を経験することが可能となりました。これらの実績をもとに今後、本学でも臨床参加型実習の実践ができるよう改善を行う予定です。教育評価の面では、授業評価の公表、試験問題の精度管理などを行っております。これらの解析を通して明らかになったことは定員増以後、成績の分布が広がったことにあり、極めて積極的で向学心に富む学生がいる一方で、勉学への意欲が低下した学生も目立つようになりました。この結果、低学年での留年者が増加しております。また、モデルコアカリキュラムの改定、4 年次の共用試験および医師国家試験では臨床能力が重要視されております。臨床実習における臨床推論能力の向上は急務の課題であります。モデルコアカリキュラムの改定に伴い、臨床実習における技能教育の充実を図ることはできていますが、臨床において最も重要な臨床推論ができる能力をつけるため、真の参加型臨床実習を具現化するとともに卒業時の Advanced OSCE において臨床能力を評価するように、課題改訂を行いました。さらに、今後 5 年間は医学部の国際認証に適合できるように臨床実習および卒後研修の質の改善が必要となります。

教育改革は大胆さ、俊敏さとともに継続性が必要です。優れた医師・看護師を育てるには教育の枠組みとともに、それを支える教員の情熱、病院職員、患者、社会の協力、そして何より学生自身の自覚なしでは成し遂げられません。1 人でも多くの優れた医療人を育て、和歌山県に輩出することに皆様方の協力を願って止みません。

和歌山県立医科大学教育研究開発センター規程

制 定 平成 18 年 4 月 1 日 和医大規程第 1 4 号

最終改正 平成 22 年 2 月 23 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、和歌山県立医科大学組織運営規則（平成 1 8 年 4 月 1 日和医大規則第 4 号。）第 1 9 条の規定に基づき、和歌山県立医科大学教育研究開発センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、和歌山県立医科大学（以下「本学」という。）における医学・保健看護学教育の研究、開発、企画及び評価方法の研究並びに入試制度の研究を行うことにより、本学の医学・保健看護学教育活動の円滑な推進と不断の改善に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第 3 条 センターは、和歌山県立医科大学学則（平成 1 8 年和歌山県立医科大学規則第 1 号。）第 2 条の定めるところにより、センターに係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。

- 2 前項の自己評価については、本学の職員以外を含めた者による検証を受けるよう努めるものとする。
- 3 第 1 項の自己評価を行うため、和歌山県立医科大学教育研究開発センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。
- 4 自己評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(教育研究等の状況の公表)

第 4 条 センターは、センターの教育研究及び組織運営の状況について、定期的に公表する。

(業務)

第 5 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 医学・保健看護学教育システム全般に関わる研究、開発及び企画
- 二 医学・保健看護学教育の内容・方法及び授業改善（F D）に関わる研究、開発及び企画
- 三 医学・保健看護学教育のカリキュラムに関わる研究、開発及び企画
- 四 医学・保健看護学教育の臨床技能教育に関わる研究、開発及び企画
- 五 医学・保健看護学教育の評価方法の研究
- 六 入試制度の研究
- 七 その他センターの目的を達成するため、必要な事項

(部会)

第6条 センターに次の各号に掲げる部会を置く。

- 一 カリキュラム専門部会
- 二 入試制度検討部会
- 三 臨床技能教育部会
- 四 教育評価部会
- 五 FD部会

2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(職員)

第7条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 本学の専任教員のうちから学長がセンターに兼ねて勤務を命じた者
- 四 その他必要な職員

2 前項第2号から第4号までの職員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

3 第1項第3号の職員が兼ねて勤務を命令される期間は、2年とし、再び命ずることができる。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長)

第8条 センター長は、教育研究開発センター専任教授をもって充てる。

2 センター長の任期は、当該センター長の専任教授としての任期とする。

3 センター長は、センターに関する事項を掌理する。

(副センター長)

第9条 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長が命ずる。

2 副センター長は、センター長の業務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第10条 センターに、和歌山県立医科大学教育研究開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置き、センターの教育又は研究に関する重要事項を審議させる。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務等)

第11条 センターの庶務は、事務局学生課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

和歌山県立医科大学教育研究開発センター部会長等会議運営要項

制 定 平成18年7月1日 和医大教研開セ要項第1号

最終改正 平成22年4月1日

(趣旨)

第1条 この要項は、和歌山県立医科大学教育研究開発センター運営委員会規程（平成18年和医大規程第15号）第7条第2項の規定に基づき、部会長等会議の組織、運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(部会長等会議)

第2条 部会長等会議は、次の各号に掲げる者で組織する。

一 センター長

二 各部会長

三 その他センター長が必要と認めた運営委員会委員

2 センター長は、部会長等会議を招集し、その議長となる。

3 部会長等会議は、運営委員会の要請に基づき、各部会相互に連携または調整が必要とされる事項及び特定の審議事項を審議する。

(要項の改廃等)

第3条 この要項に疑義が生じた場合の解釈及び改廃は、センター運営委員会において行う。

(庶務等)

第4条 この要項に関する庶務は、事務局学生課において処理する。

附 則

この要項は、平成18年7月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

教育研究開発センター運営委員会委員

(平成23年度)

議長	板倉 徹	理事長・学長
委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
委員	岸岡 史郎	医学部長
委員	山田 和子	保健看護学部長
委員	篠崎 和弘	学生部長
委員	岩橋 秀夫	入試・教育センター長
委員	脇田 文広	事務局 事務局長
委員	岡村 吉隆	病院長

センター一部会委員

(平成23年度)

◆ カリキュラム専門部会

部会長	羽野 卓三	教育研究開発センター長
副部会長	山田 和子	保健看護学部長
医学部委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	岩橋 秀夫	教養・医学教育大講座 教授
	池田 裕明	教養・医学教育大講座 教授
	鶴尾 吉宏	解剖学第一教室 教授
	村垣 泰光	病理学第一教室 教授
	赤阪 隆史	内科学第四教室 教授
	吉田 宗人	整形外科科学教室 教授
	佐々木 秀行	内科学第一教室 准教授
	上野 雅巳	卒後臨床研修センター長
	中尾 直之	脳神経外科学教室 講師
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	志波 充	保健看護学部 教授
	池内 佳子	保健看護学部 教授
	有田 幹雄	保健看護学部 教授
	上松 右二	保健看護学部 教授
	内海 みよ子	保健看護学部 教授
	鈴木 幸子	保健看護学部 教授
	西村 賀子	保健看護学部 教授
	森岡 郁晴	保健看護学部 教授

鹿村 真理子	保健看護学部 教授
岩原 昭彦	保健看護学部 准教授
服部 園美	保健看護学部 講師
坂本 由希子	保健看護学部 講師

◆ 臨床技能教育部会

部会長	羽野 卓三	教育研究開発センター長
副部会長	山田 和子	保健看護学部長
医学部委員		
OSCE 部会	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	加藤 順	内科学第二教室 准教授
	今西 敏雄	内科学第四教室 准教授
	内山 和久	外科学第二教室 准教授
	中 敏夫	救急・集中治療部 准教授
	古田 浩人	内科学第一教室 講師
	村田 顕也	神経内科 講師
	柑本 康夫	泌尿器科学教室 准教授
	宮本 武	眼科学教室 講師
CBT 部会	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	鶴尾 吉宏	解剖学第一教室 教授
	村垣 泰光	病理学第一教室 教授
	竹下 達也	公衆衛生学教室 教授
	篠崎 和弘	神経精神医学教室 教授
	入江 真行	医学医療情報研究部 准教授
	西 理宏	内科学第一教室 准教授
	尾浦 正二	外科学第一教室 准教授
	水本 一弘	麻酔科学教室 准教授
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	志波 充	保健看護学部 教授
	水田 真由美	保健看護学部 准教授
	黒田 裕子	保健看護学部 講師

◆ FD 部会

部会長	山田 和子	保健看護学部長
副部会長	鶴尾 吉宏	解剖学第一教室 教授
医学部委員	鶴尾 吉宏	解剖学第一教室 教授
	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	井原 義人	生化学教室 教授
	篠崎 和弘	神経精神医学教室 教授
	三家 登喜夫	臨床検査医学教室 教授
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	内海 みよ子	保健看護学部 教授
	柳川 敏彦	保健看護学部 教授
	鹿村 真理子	保健看護学部 教授
	池田 敬子	保健看護学部 講師
	岡本 光代	保健看護学部 助教

◆ 入試制度検討部会

部会長	山田 和子	保健看護学部長
副部会長	羽野 卓三	教育研究開発センター長
医学部委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	藪内 昭男	教養・医学教育大講座 教授
	岩橋 秀夫	教養・医学教育大講座 教授
	仙波 恵美子	解剖学第二教室 教授
	竹下 達也	公衆衛生学教室 教授
	篠崎 和弘	神経精神医学教室 教授
	近藤 智善	神経内科 教授
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	志波 充	保健看護学部 教授
	池内 佳子	保健看護学部 教授
	有田 幹雄	保健看護学部 教授
	上松 右二	保健看護学部 教授
	西村 賀子	保健看護学部 教授
	岩橋 秀夫	教養・医学部大講座 教授

◆ 教育評価部会

部会長	羽野 卓三	教育研究開発センター長
副部会長	山田 和子	保健看護学部長
医学部委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	岩橋 秀夫	教養・医学教育大講座 教授
	村垣 泰光	病理学第一教室 教授
	篠崎 和弘	神経精神医学教室 教授
	赤水 尚史	内科学第一教室 教授
	出口 寛文	大阪医科大学 教育機構 教授
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	水主 千鶴子	保健看護学部 教授
	森岡 郁晴	保健看護学部 教授
	柳川 敏彦	保健看護学部 教授
	黒田 裕子	保健看護学部 講師
	辻 あさみ	保健看護学部 講師

◆ 教育研究開発センター自己評価委員会

羽野 卓三	教育研究開発センター長
岸岡 史郎	医学部長
山田 和子	保健看護学部長
篠崎 和弘	学生部長
岩橋 秀夫	入試・教育センター長
岡村 吉隆	病院長
出口 寛文	大阪医科大学教育機構 教授
大江 嘉幸	和歌山市教育委員会 教育長

平成 23 年度事業実績

医 学 部

開催した部会一覧

教育評価部会

第1回

開催日時：平成23年5月25日（水）

- 議 事： 1. カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて
2. 卒業判定基準
3. CBT判定基準
4. 仮進級判定時期
5. 授業の相互評価について

第2回

開催日時：平成23年7月14日（木）

- 議 事： 1. カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて
2. 卒業判定基準
3. 授業の相互評価について

第3回

開催日時：平成23年8月29日（月）

- 議 事： 1. 卒業判定基準
2. カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて
3. Best Teacher 賞について

第4回

開催日時：平成23年11月15日（火）

- 議 事： 1. カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて
2. 卒業判定基準の報告
3. Best Teacher 賞について
4. 平成24年度からのCBT判定基準
5. O S C E再試験
6. 授業評価の公開
7. 授業評価アンケートの項目再検討
8. 教養のあり方について

入試制度検討部会

第1回

開催日時：平成23年4月26日（火）

- 議 事： 1. 面接試験の方法について
2. 成績に関する入学後の追跡調査について
3. 自己推薦書について

第2回

開催日時：平成23年5月23日（月）

議 事：成績に関する入学後の追跡調査について

第3回

開催日時：平成23年12月1日（木）

議 事：平成27年度大学入試センター試験の科目について

第4回

開催日時：平成24年3月26日（月）

議 事：1. 平成27年度大学入試センター試験科目の予告時期について
2. 身体に障害等がある場合の特別配慮について
3. 面接点について
4. 秋入学について

カリキュラム専門部会

第1回

開催日時：平成23年7月25日（月）

議 事：1. モデル・コア・カリキュラム改訂による変更（講義実習）について
2. シラバスの連番化について
3. オーガナイザーの改定について
4. 選択実習中の海外実習について
5. 学外講師依頼について（「寄生虫学」、「免疫学」）
6. O S C E開催日の変更について

第2回

開催日時：平成23年10月5日（木）

議 事：1. 平成24年度教育要項作成方針について
2. 細胞生物の講義について
3. カリキュラムの系統について（連番の付与、英語教育）

第3回

開催日時：平成23年11月28日（月）

議 事：1. 平成24年度カリキュラム（1～6年生）について
2. 臨床実習（期間の医行為）について
3. 臨床実習のカルテ記載について
4. 「細胞の構造と機能」について
5. 実習の増加について

臨床技能教育部会

開催日時：平成23年12月22日（木）

議 事：1. CBT・OSCEの運用について
2. 平成24年度OSCEの運用について

FD 部会

開催日時：平成23年4月27日（水）

議 事：事業（開催）計画について

自己評価委員会

開催日時：平成23年12月21日（水）

議 事：平成22年度教育研究開発センター事業実績報告書について

開催したFD一覧

第1回

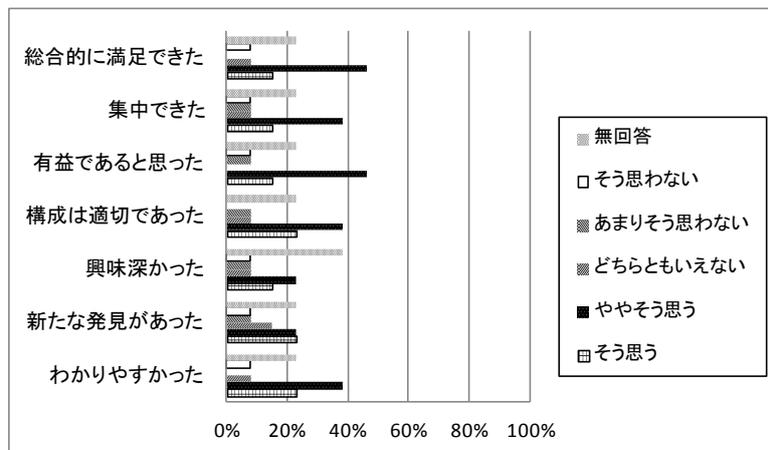
開催日時：平成23年4月13日（水）

演題：試験問題作成について

講師：和歌山県立医科大学 教育研究開発センター
センター長 羽野 卓三

参加者数：教員 13名

FD終了後に実施したアンケートの結果



第2回

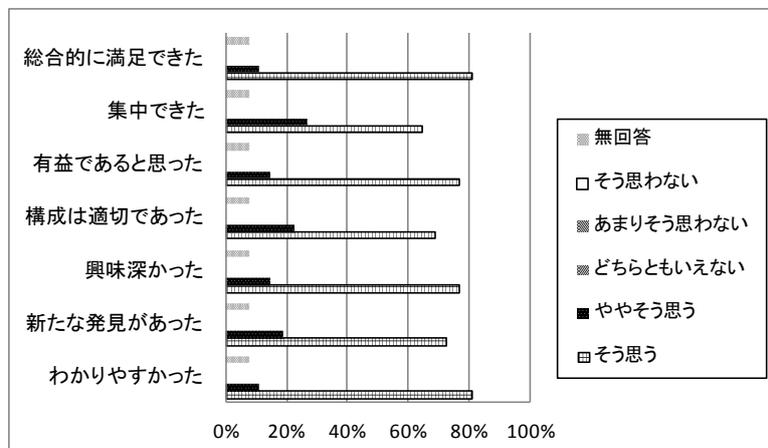
開催日時：平成23年7月8日（金）

演題：いかに医師国家試験の成績を上げるか

講師：東京慈恵会医科大学 教育センター
センター長 福島 統

参加者数：教員 27名

FD終了後に実施したアンケートの結果



第3回

開催日時：平成23年8月26日（金）

テーマ1

演題：試験問題の評価方法について

講師：（社）医療系大学間共用試験実施評価機構
研究部長 仁田 善雄 先生

参加者数：教員 19名

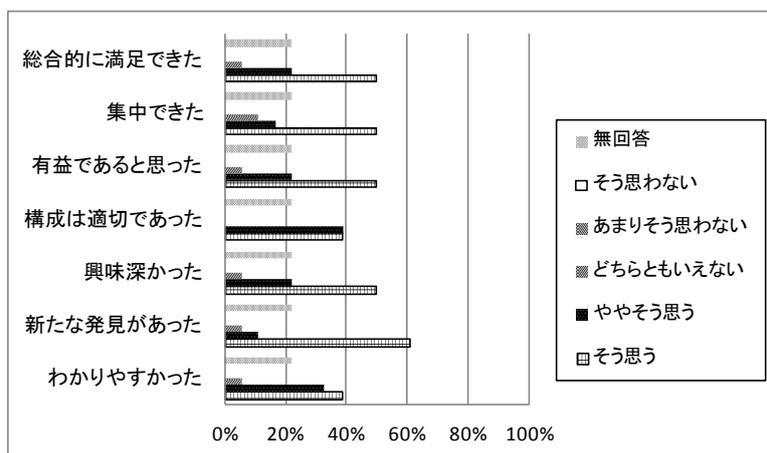
テーマ2

演題：進級試験・卒業試験の解析について

講師：和歌山県立医科大学 教育研究開発センター
センター長 羽野 卓三

参加者数：教員 19名

FD 終了後に実施したアンケートの結果



第4回

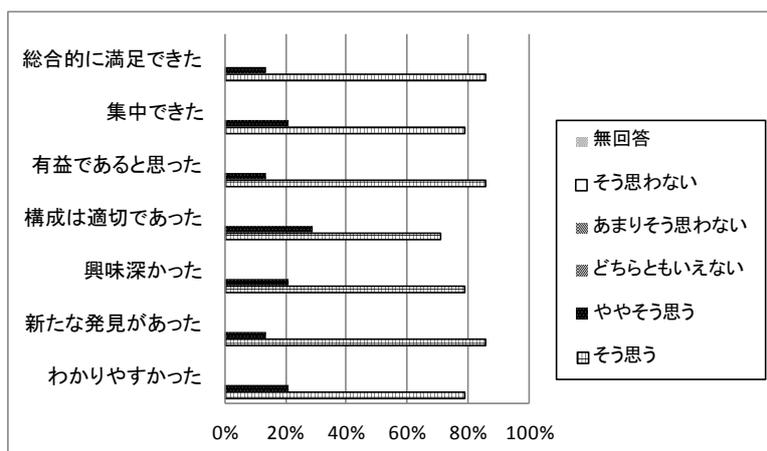
開催日時：平成23年8月27日（土）

演題：医学教育：課題と今後の展開

講師：東京大学 医学教育国際協力研究センター
教授 北村 聖 先生

参加者数：教員 15名

FD 終了後に実施したアンケートの結果



第5回

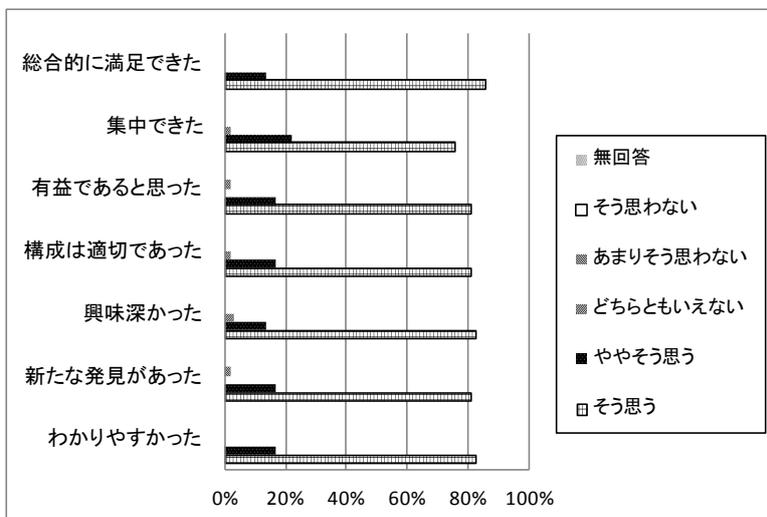
開催日時：平成23年10月12日（水）

演題：テュートリアル教育の概念と実績
— 22年間の経験から

講師：東京女子医科大学 医学教育学
主任教授 吉岡 俊正 先生

参加者数：教員 12名

FD 終了後に実施したアンケートの結果



和歌山SPの会

SP (Simulated Patient : 模擬患者) は、医療従事者の研修などで患者さんの役をします。医療現場でのコミュニケーションを改善するために重要性が高まっており、ケアマインドを併せもった医療人教育を進めるためにも必要です。和歌山 SP の会は、平成 18 年度に設立され、臨床技能教育の効果を高めるよう研修を重ねています。

平成 23 年度の開催内容

	開催日時	内容
第 45 回	平成 23 年 4 月 13 日 (水)	平成 23 年度 advanced OSCE のための準備教育
第 46 回	平成 23 年 5 月 18 日 (水)	平成 23 年度 advanced OSCE のための準備教育
第 47 回	平成 23 年 6 月 8 日 (水)	平成 23 年度 advanced OSCE のための準備教育
第 48 回	平成 23 年 6 月 20 日 (月)	平成 23 年度 advanced OSCE
第 49 回	平成 23 年 9 月 14 日 (水)	がん患者シナリオについての講習
第 50 回	平成 23 年 10 月 26 日 (水)	がん患者シナリオについての講習
第 51 回	平成 23 年 11 月 16 日 (水)	がん患者シナリオについての講習
第 52 回	平成 23 年 12 月 21 日 (水)	医療面接の講習
第 53 回	平成 24 年 1 月 11 日 (水)	医療面接の講習
第 54 回	平成 24 年 2 月 8 日 (水)	医療面接の講習
第 55 回	平成 24 年 2 月 22 日 (水)	医療面接の講習
第 56 回	平成 24 年 3 月 5 日 (月)	医療面接の講習
第 57 回	平成 24 年 3 月 13 日 (火)	臨床実習入門
第 58 回	平成 24 年 3 月 14 日 (水)	OSCE : 医療面接

平成23年度に取り組んだ事業

平成 22 年度「大学教育・学生支援推進事業」

プラグマティズムの臨床医育成プログラム

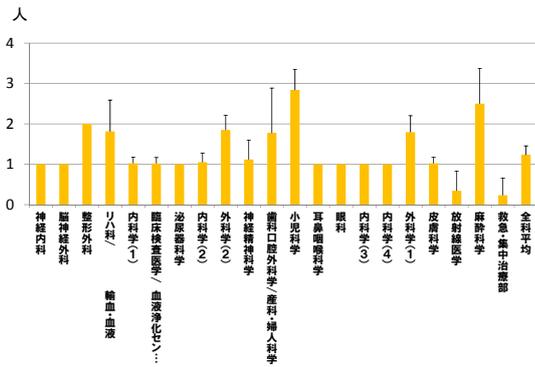
ハードマインドとソフトマインドの融合による患者評価に立脚した「実践的臨床医」育成プログラム

概 要

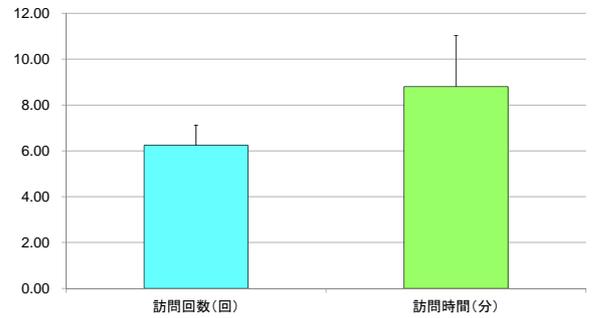
臨床医には科学的根拠に基づく医学的知識、臨床技能(Hard-mind)とともに、患者の精神的、社会的状況を把握し共感する能力(Soft-mind)が必要である。臨床の現場では、科学的・医学的根拠に立脚した診断を行うとともに患者の意志、精神的・社会的状況などを加味し、患者個人にとって最も適した治療方針を決定することによって、初めて患者が満足できる医療を提供することができる。Hard-mind と Soft-mind の融合は臨床的経験によって初めて可能になるものであり、プラグマティズムに立脚した経験的臨床能力の育成が必要である。Hard-mind と Soft-mind をどのように患者個人に適応するかは、個々のケースで異なり、豊富な臨床経験が必要であるが、このような観点は現在の医学教育においても最も欠けている要素である。過去数年間、本学医学部は問題解決型養育の導入とともに心の教育（ケアマインド教育＝Soft-mind 教育）に取り組んできた。臨床実習の現場でこれらの取り組みと科学的知識が適切に融合されることが重要であるが、教育の現場では、これらを融合させるためのプログラムを実行するに至っていなかった。

今回の取り組みでは、現在継続的に行っている Soft-mind 教育と Hard-mind 教育の成果を実習の中で活かしつつ、最終的に臨床実習の場において融合し、多面的に評価することによって、患者が求める臨床医を養成することにある。本プログラムはステップ1から4で形成される。ステップ1での1年次の Hard-mind 教育と Soft-mind 教育および経験教育は、教養教育とケアマインド教育および老人福祉施設実習、ステップ2の2-3年次は基礎医学教育と医療行動学および保育所・障害者施設、ステップ3は臨床医学・臨床技能教育と臨床実習準備教育、ステップ4は最終段階として統合的な臨床実習からなる。評価としては、従来からの医学部教員による基礎医学・臨床医学の知識、画像読映能力、臨床推論能力などの評価に加え、看護師による性格、精神状態などの把握の評価と本人および家族からの患者自身への態度や気配りなど評価を加味する。さらに、「医師としての適性」をもって概略評価とする。最終的には学生が科学的根拠に基づいた診断と患者の精神的・社会的背景に応じて作成した臨床的な治療方針を教員と看護師が総合的に評価する。評価を基に臨床医としての実践的な能力、患者に満足を与えられる医療を提供できる能力をもっているかをフィードバックし、PDCA サイクルを機能させることで、患者が求める臨床医を養成する。さらに各評価の内容について解析するとともに、臨床研修医についても同様の評価を行い、臨床医として重要な要素の解析も行う。

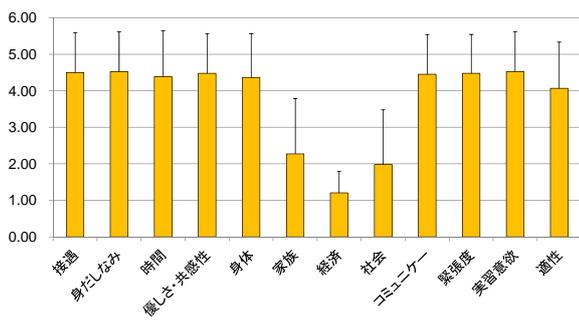
担当患者数(人)



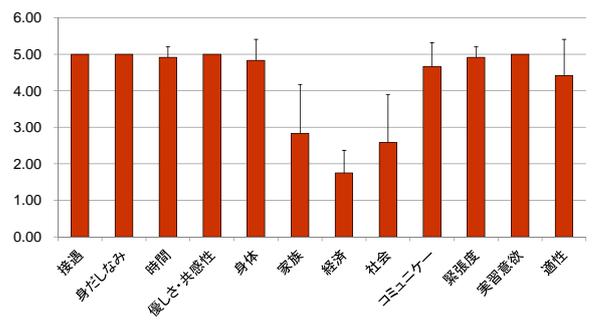
訪室回数(1週間)、訪室時間
~研修医~



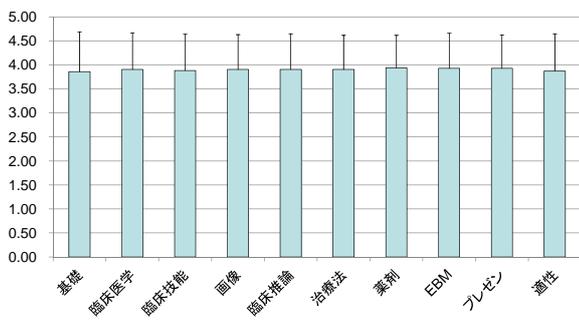
患者評価



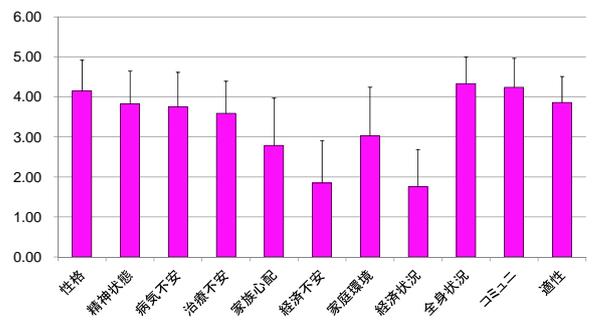
患者からの評価
~研修医~



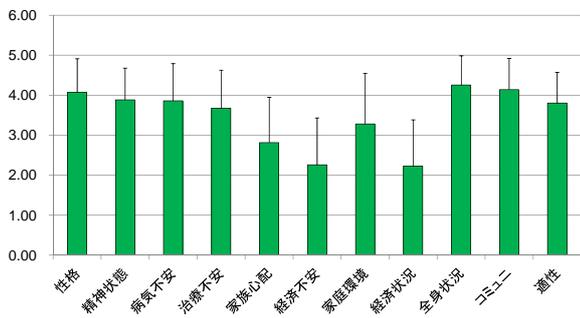
指導医評価



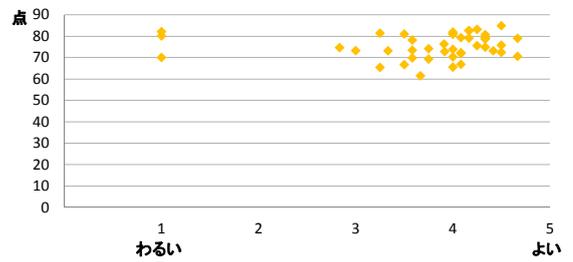
看護師評価



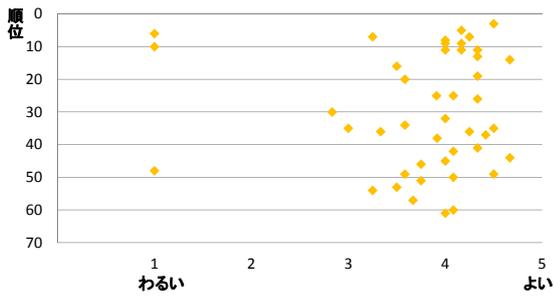
自己評価



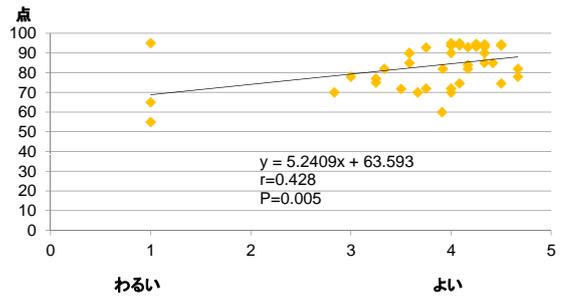
患者評価と卒業試験成績(平均点)との相関



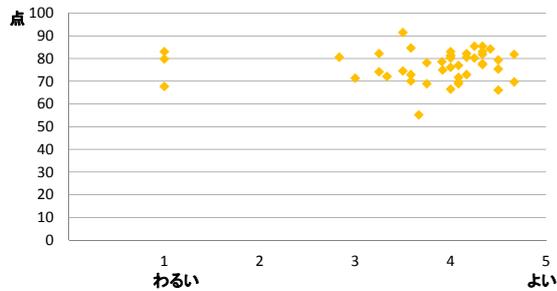
患者評価と総合順位との相関



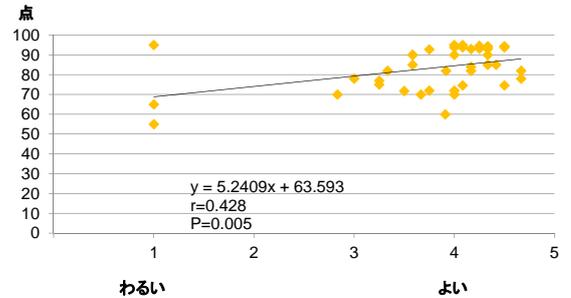
患者評価とケアマインド教育成績との相関



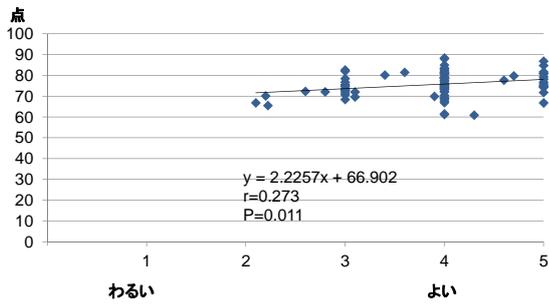
患者評価とCBT成績との相関



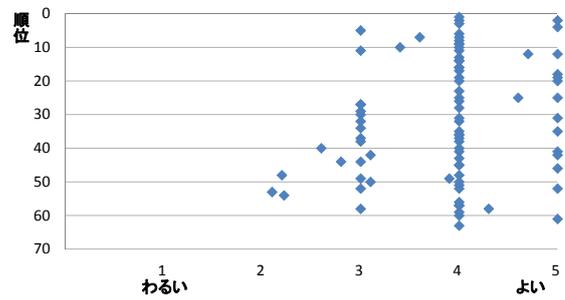
患者評価とOSCE成績との相関



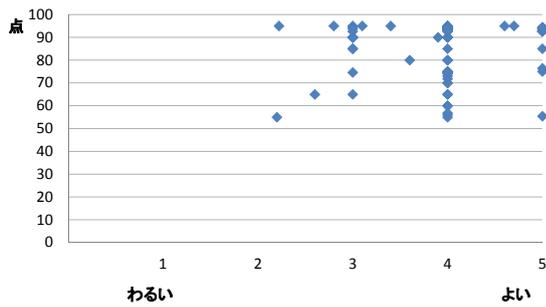
指導医評価と卒業試験成績(平均点)との相関



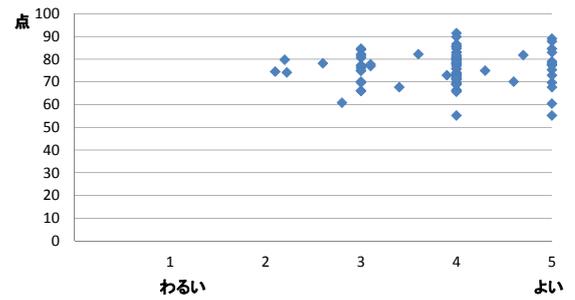
指導医評価と総合順位との相関



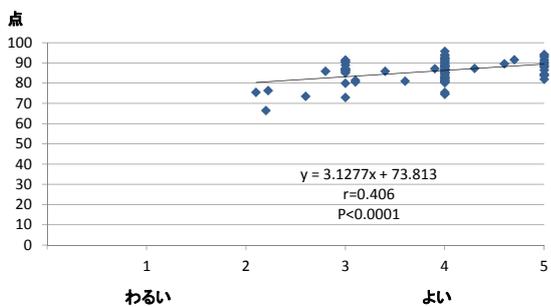
指導医評価とケアマインド教育成績との相関



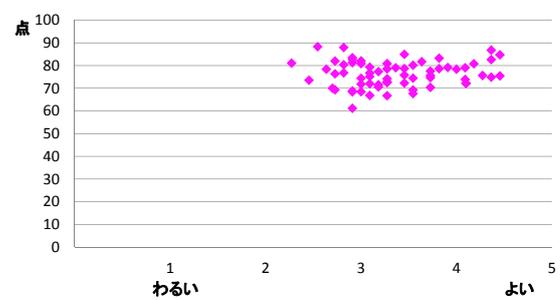
指導医評価とCBT成績との相関



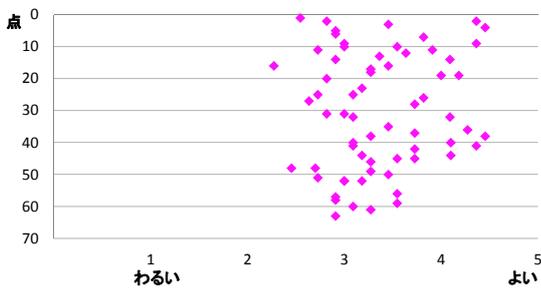
指導医評価とOSCE成績との相関



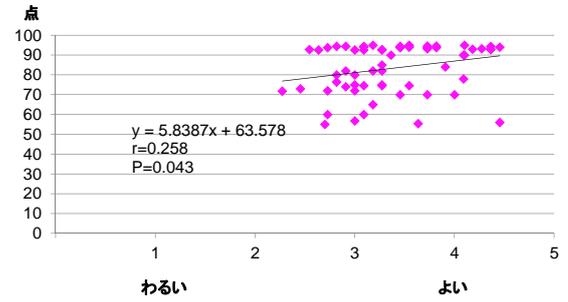
看護師評価と卒業試験成績(平均点)との相関



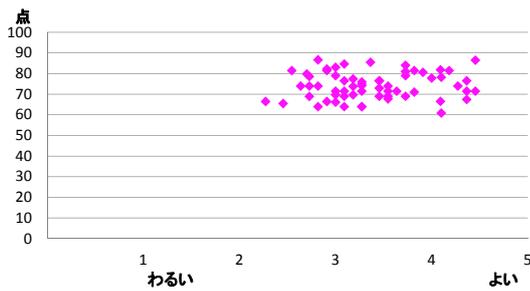
看護師評価と総合順位との相関



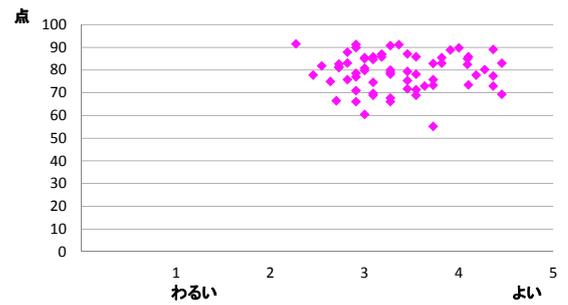
看護師評価とケアマインド教育成績との相関



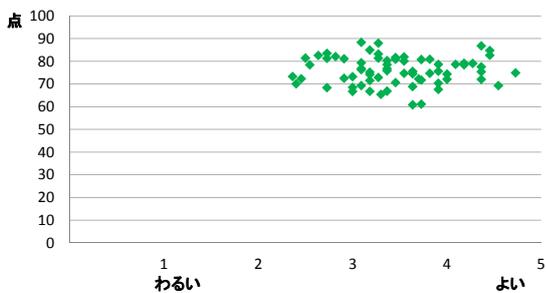
看護師評価とCBT成績との相関



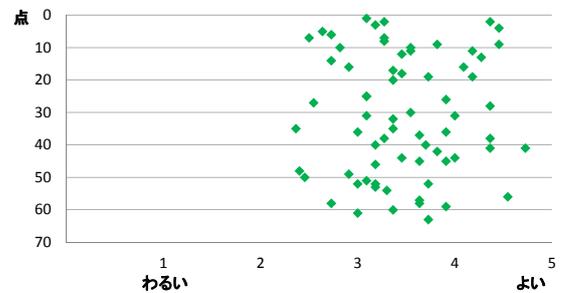
看護師評価とOSCE成績との相関



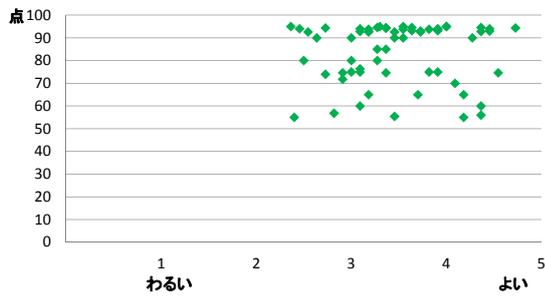
自己評価と卒業試験成績(平均点)との相関



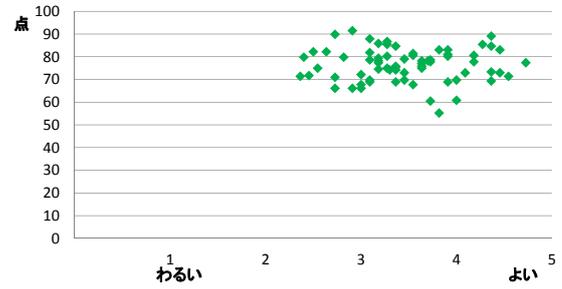
自己評価と総合順位との相関



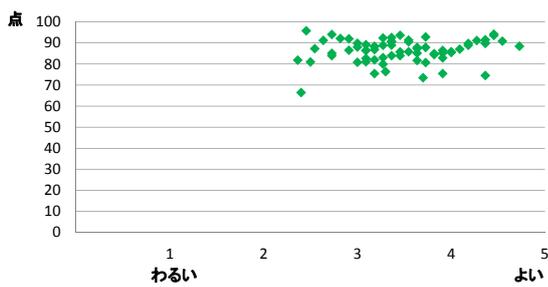
自己評価とケアマインド教育成績との相関



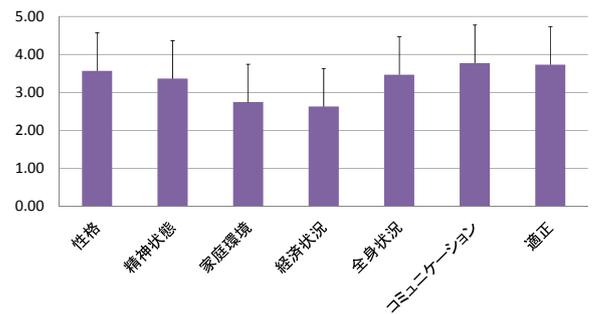
自己評価とCBT成績との相関



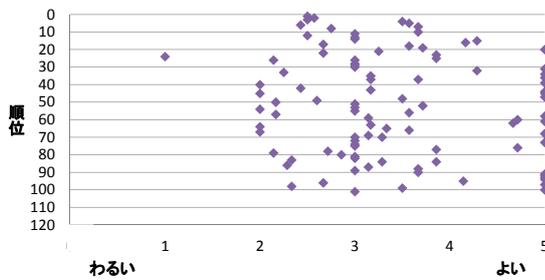
自己評価とOSCE成績との相関



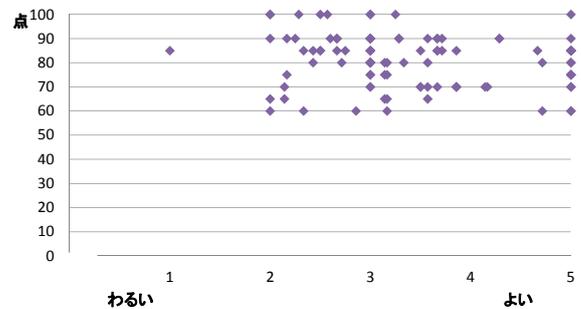
介護施設での評価



介護施設での評価と1年次成績の相関



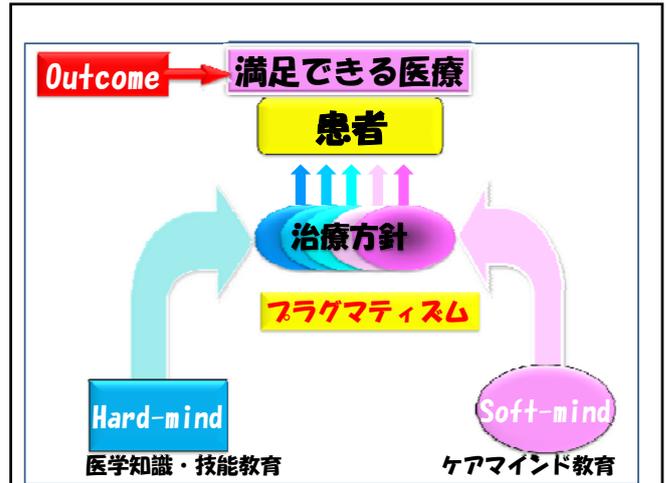
介護施設実習での評価とケアマインド教育成績との相関



結語

- 指導医による知識・技能面での評価は、試験の総合成績および共用試験の結果とよく相関した。
- 患者および看護師からの共感および支援的対応についての評価は医学の講義や共用試験の成績とは相関せず、むしろケアマインド教育の成績と相関した。

多面的評価は、知識・技能に偏重した評価を補足し、患者への配慮の心を育てる教育の必要性や効果を評価するのに役立った。



平成 21 年度文部科学省採択
大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム

プラグマティズム的臨床医育成プログラム

ハードマインドとソフトマインドの融合による
患者評価に立脚した「実践的臨床医」育成プログラム

活動成果報告会

和歌山県立医科大学が三年間行った取組みについて活動成果報告会を開催しました。

開催日時：平成 24 年 2 月 21 日 13 時～14 時 30 分

開催場所：和歌山県立医科大学（三葛キャンパス）講義室



式次第

基調講演 1 和歌山県立医科大学の取組内容紹介・活動成果の報告

プラグマティズム的実践的臨床医育成プログラム

和歌山県立医科大学 教育研究開発センター
センター長 羽野 卓三



基調講演 2 名古屋市立大学の取組内容紹介

医療系学部連携チームによる地域参加型学習

名古屋市立大学 大学院医学研究科 医学・医療教育学分野 教授
早野 順一郎 先生



学生実習について

平成23年度1年生地域福祉関係施設実習

- 目的：ケアマインドやコミュニケーションスキルを身につける。
介助体験等によって医師となる自覚、厳しさを身につける。
入居者・利用者を中心とした各スタッフの協調性の重要性を理解する。老人福祉施設の現場を介助体験等に通じて理解し、老人医療の現場を体験する。アーリー・エクスポージャーに続いて、地域医療の実態等を学ぶ。
- 実習内容：老人福祉施設の指導者や職員の指示に従い、入居者・利用者周辺における各種サービスの見学と体験を実施する。
- 実習期間：平成24年2月
- 実習施設：竹の里園、紀伊松風苑、紀伊てまり苑、わかうら園、喜成会、大日山荘、芦辺荘、紀三井寺苑、親和園、第二親和園、第五親和園、アンシアナトー、高陽園、天美苑、田鶴苑、愛光園、さくら苑、ゆら博愛園、ひだか博愛園みちしお、日高博愛園、ときわ寮川辺園、美山の里、カルフル・ド・ルポ印南、龍トピア、熊野本宮園、白浜日置の郷

学生の感想文

この実習では様々な形態の介護について学ぶことができました。利用者の方のニーズにあわせて選択肢が用意されていることを学びました。また、この実習ではたくさんの出会いがありました。全体的に対話の時間がたくさんあったので利用者のかたがたといろんなお話をすることができ、その方がどのような人生を送られてきたのかを垣間見れたような気がしてとても貴重な体験でした。介護士の方との出会いもとても新鮮でした。利用者の方一人一人の個性にあわせて対応していたり、細部まで気にかけていたりとはやはりプロなんだなと感じました。実りの多い実習でした。

.....

将来自分達が相手にするのは“病気”ではなく、あくまで“一人ひとりの患者さんが抱えている病気”なのである。同じ病気であったとしても、それぞれの患者さんによって異なる。それぞれのお年寄りによって、かなりニーズが異なるのだ。一日も早くリハビリをして施設を出ていきたいという方もいれば、できることなら施設にずっといたいという方もいた。そういった患者さん一人ひとりのニーズにうまく応えつつ、一人ひとりに合った治療を選択していくのは重要だと強く感じた。医学部の講義が進むにつれ、最近では自分の中でもどうしても医師が持つ三人称の視点ができつつあったが、今回の実習を通して、より患者さんに近い二人称の視点や立場の重要性を再確認できたことは大きな収穫であると思う。

平成23年度2年生保育園実習

目的：医療人としての豊かな人間涵養を育むため、乳幼児とふれあうことにより、ケアマインドやコミュニケーション能力を身につける。また、実習を通じて育児を支援する保育園の現状を学ぶ。

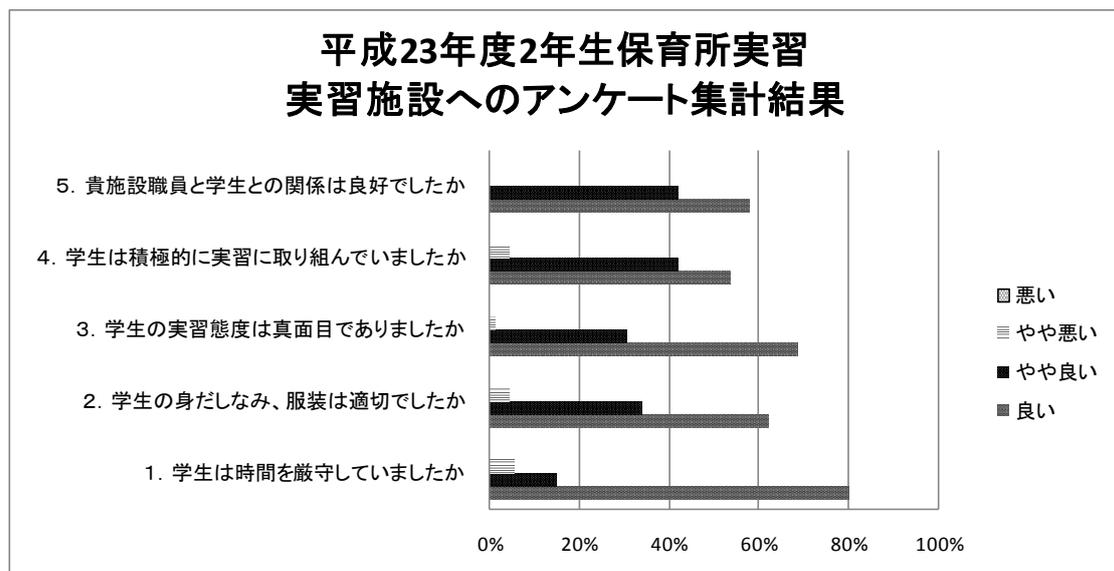
実習期間：平成24年3月5日（月）・6日（火）／9日（金）・12日（月）／
13日（火）・14日（水）／15日（木）・16日（金）

実習施設：さつき保育園、さんた保育園、みちる保育園、しょうぶ保育園、ようすい保育園

学生の実習レポート

内容	室内遊び、トイレ、おやつ、屋外遊び、昼食、清掃
感想等	<p>今日は2日目ということで、園児が覚えていてくれたようで、朝から一緒によく遊びました。1日目から感じていたことですが、子どもと接するのにかがんだり、子どもを抱っこしたりと、腰にくる体勢が多く、1日目終了してから、腰痛がひどかったです。改めて、保育士さんの身体的な大変さを身をもって感じました。2日間を通して、1歳児というのは、自我が発達し、自分の思いを伝えるのに全身を使って表現するものなんだと、日頃ではわからないことを体験しました。</p> <p>時に我がままを言う園児からは、その対処に、将来医師になり、自由気ままな患者さんを相手にした時に重なるのかもしれないと思います。</p> <p>また、子どもというのは小さな大人ではなく、あいさつやマナー集団行動など、このようにして獲得し、成長していく過程を少し見れた気がします。保育士のみなさんには、大変お忙しい中、実習させていただき、貴重な体験をさせていただき感謝しています。本当にありがとうございました。</p>

平成23年度2年生保育所実習 実習施設へのアンケート集計結果



平成23年度2年生障害者福祉関係施設実習

目的：大学病院ではほとんど経験することの出来ない障害者福祉施設での実習を行うことにより、さらにケアマインドを育成し、医療の現状について理解を深めることにより、医療人としての資質の向上に努める。

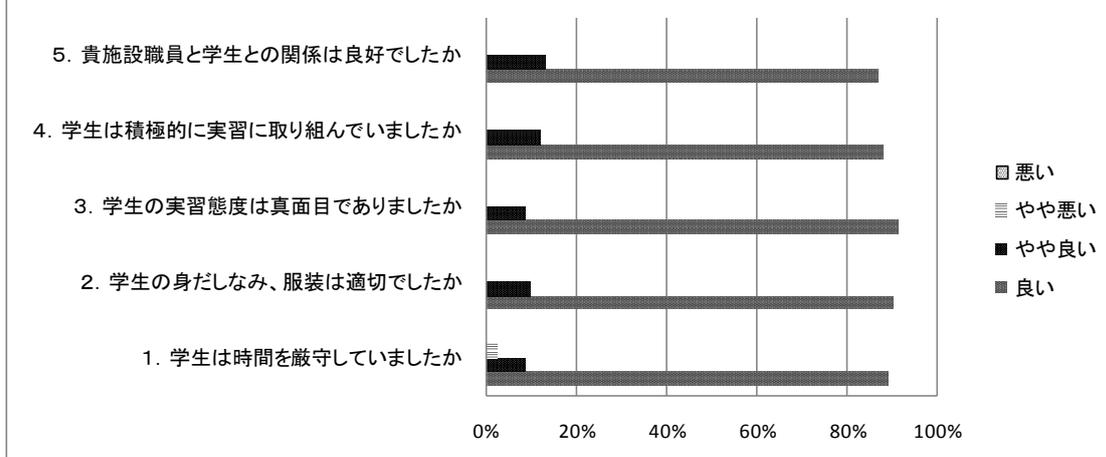
実習期間：平成24年3月5日～16日（実習先、グループによって期間は異なる）

実習施設：愛徳医療福祉センター、和歌山つくし医療・福祉センター、南紀医療福祉センター・牟婁あゆみ園・牟婁さくら園、国立病院機構和歌山病院、綜愛苑

学生のレポート

内容	申し入れ、オムツ換え、散歩・日光浴、昼食の準備（手洗い）、昼食の介助 本の読み聞かせ、入浴の介助
感想等	今日は午前の活動として外で日光浴をしました。室内では大人しい感じだった方でも外に出てみると、すごくはしゃがれたり、笑顔になられる方が多くおられて、こんなちょっとした事でも利用者さんにとっては大事な刺激となるんだと感じました。職員さんがピアノで音楽を弾き始めると、みなさんとても楽しそうな表情をしておられて、こっちまで嬉しくなりました。1階の利用者さんは言葉を通してコミュニケーションをとれる方があまりおられなかったのですが、この2日間を通して表情でも会話できるんだと感じました。また、手をのばしてつかんできたり、こっちを見ながら大声で叫んだりしている方は、本当はかまって欲しくて今の自分の気持ちを一生懸命アピールしているんだという事が理解できて、少しではあるけれど、利用者さんの気持ちを理解できたような気がして嬉しかったです。また、ある利用者さんに本の読み聞かせをさせてもらったのですが、利用者さんがとても喜んで下さって、知識のない私でも、利用者さんの役に立つ事ができたんだと感じて嬉しくなりました。この2日間を通して学んだ貴重な経験を今後の生活に活かさせられたらなと思いました。

平成23年度2年生障害者福祉施設実習 実習施設へのアンケート集計結果



発行した冊子

教育研究開発センターでは平成 23 年度に以下の冊子を発行しました。

平成 23 年度 5 年生医療問題ロールプレイ パンフレット・DVD

平成 23 年度 5 年生が取り組んだ医療問題ロールプレイの全ての班の上演を録画した DVD と各班の概要を掲載したパンフレットです。

発行月：平成 23 年 5 月



ロールプレイ概要：医療問題ロールプレイは、学生が現在の医療と体制の問題点を探り、「医療のあるべき姿」をえがき、発表するという取り組みで 1999 年に始めました。それまでに学び、体験したことを総合的にまとめ、発表する機会ともなり、患者さんやご家族の心に対する感性を磨き、理解につなげることができます。テーマ、シナリオ作成、監督、演劇、音響、照明、ポスター作成など、すべてを学生の手作りで行っています。発表までは教員が関与しません。シナリオ作成にあたって「絶対に医療関係者に相談してはならない」というルールを決めています。そのため、学生自身が培ったケアマインド、患者さんの心をストレートに反映したシナリオができあがり、感動を生む発表につながっています。

発表は 5 年次の 4 月に行われます。入院患者さんにも観衆に加わっていただくため、学生が病棟を回って発表会にお誘いしています。このような一つ一つのプロセスによって「刷り込み」が行われ、また、チームの力で一つのことを成し遂げる貴重な経験にもなっています。

平成 21 年度文部科学省大学教育学生支援推進事業【テーマ A】採択プログラム「プラグマティズム的臨床医育成プログラム」総括報告書

平成 21 年度文部科学省大学教育学生支援推進事業【テーマ A】に採択された本学取組「プラグマティズム的臨床医育成プログラム」における事業の 3 年間の活動成果報告を掲載しています。

発行年月：平成 24 年 3 月



第 43 回日本医学教育学会総会での発表内容

開催日時：2011 年 7 月 22 日（金）・23 日（土）

開催場所：広島国際会議場

テ ー マ：「医学教育学—その理論と実践」

一般演題 口演 第一日目 7 月 22 日（金）

口 演：教育技法、授業・実習の工夫（1）

「医学部・保健看護学部共通講義における相互評価の検討」

羽野 卓三*1、川邊 哲也*1、水越 正人*1、池田 裕明*2、竹山 重光*2、志波 充*3

*1 和歌山県立医科大学教育研究開発センター *2 和歌山県立医科大学医学部教養・医学教育大講座 *3 和歌山県立医科大学保健看護学部

【目的】本学では、医学部・保健看護学部の共通講義として障害者や家族の方に講演頂き、その後、両学部の学生によるグループワークおよび発表を行う演習を行っている。この演習の相互評価について方法による違いや学部間の違いがあるかについて検討した。

【方法】医学部生 104 名、保健看護学部学生 84 名を 22 グループに分け演習を行った。アンジェルマン症候群（A）およびダウン症（D）の家族からエピソードや心情を述べてもらい、グループ討議、発表を行った。A の演習では、グループワークにおける関与度および発表の内容を自己評価の段階を指定しないで 5 段階評価で相互評価した。D の演習においても同様に行ったが、自己評価を 5 段階中の段階 3 として評価した。

【結果】A の演習では発表内容の教員による評価は 3.82 ± 1.03 （平均 \pm S D）、医学部学生の評価は 4.40 ± 0.10 、保健看護学部の評価は 4.32 ± 0.20 であった。グループワークにおける自己評価は、医学部学生による同学生への評価は 4.67 ± 0.16 、保健看護学部学生への評価は 4.76 ± 0.13 、保健看護学部学生による同学生への評価は 4.56 ± 0.21 、医学部学生への評価は 4.74 ± 0.13 であった。D の演習では発表内容の教員による評価は 4.23 ± 0.53 、医学部学生の評価は 3.67 ± 0.09 、保健看護学部の評価は 3.79 ± 0.14 であった。グループワークにおける自己評価は医学部学生による同学生への評価は 3.84 ± 0.25 、保健看護学部学生への評価は 4.19 ± 0.34 、保健看護学部学生による同学生への評価は 4.04 ± 0.36 、医学部学生への評価は 3.74 ± 0.18 であった。

【結語】自己評価点数を指定しない場合、発表への評価は教員の評価より高く、3 に指定した場合は、むしろ低くなった。グループワークでの評価は、同じ学部学生への評価より他

学部学生への評価が高くなった。相互評価においては、自己評価点数の指定の有無、学部の違いを考慮する必要がある。

一般演題 口演 第二日目 7月23日(土)

口 演：多職種連携教育（IPE）（2）

「多面的評価によるプロフェッショナリズム育成にかかわる教育効果の検討」

羽野 卓三*1、丸山 茂美*1、西原 佳奈美*1、岩根 直美*1、川邊 哲也*1、岡本 恭子*2、木村 眞子*2

*1和歌山県立医科大学医学教育・集団医療学、*2和歌山県立医科大学附属病院看護部

【目的】和歌山県立医科大学では、知識・技能教育と並行して障害者や癌患者の方に講演頂き討論するケアマインド教育や福祉施設実習などを1年次より継続して行っている。これらのカリキュラムがプロフェッショナリズム育成に有効かどうかを明らかにするため、指導医、患者、看護師による多面的評価を行い解析した。

【方法】臨床実習中の医学部5年生について指導医からは知識・技能に関する10項目について、患者からは態度、配慮、意欲に関する12項目、看護師からは患者の性格、不安、身体状況、社会的背景の把握、共感に関しての11項目について聞き取り調査を行った。その結果を1年次のケアマインド教育の成績、4年次の総合成績、共用試験の成績と比較検討した。

【結果】指導医による調査項目では、知識、技能についての評価は高かったが、薬剤やEBMの知識への評価が低かった。患者の評価では接遇や診察時の配慮と比較し、家族・社会的背景への配慮が不十分であった。看護師からは性格や病気への不安に対する配慮と比較し、不安に対する配慮についての評価が低かった。指導医からの評価は、ケアマインド教育の評価とは相関せず、4年次の総合成績($r=0.62$)および($r=0.67$)と相関関係を示した。患者からの評価では、特に接遇に関する評価がケアマインド教育の成績とよく相関した。 $(r=0.53)$ が、総合順位との相関は弱く、共用試験C B T、O S C Eの成績との相関は認めなかった。看護師からの評価についてはケアマインド教育の成績と相関し($r=0.52$)、共用試験の成績とは有意な相関は認めなかった。

【結論】指導医による評価は、試験の総合成績、共用試験の結果と相関した。一方、患者および看護師からの評価は試験の総合成績とは相関せず、ケアマインド教育の成績と相関した。多面的評価は、知識・技能に偏重した評価を補足し、患者への配慮の心を育てる教育の必要性や効果を評価するのに役立った。

平成23年度事業実績

保健看護学部

開催した部会一覧

入試制度検討委員会

第1回

開催日時：平成23年4月12日（火）

議 事：1. 平成24年度入試について

第2回

開催日時：平成23年6月21日（火）

議 事：1. 平成24年度センター試験「地歴」、「公民」及び「理科」の取扱いについて

第3回

開催日時：平成23年12月28日（水）

議 事：1. 後期日程について

あり方検討委員会

第1回

開催日時：平成23年4月22日（金）

議 事：1. 新カリキュラムについて

第2回

開催日時：平成23年8月10日（水）

議 事：1. 大学院後期課程について

第3回

開催日時：平成23年9月21日（水）

議事：1. 大学院後期課程について

FD委員会

第1回

開催日時：平成23年4月4日（金）

議 事：1. 平成23年度計画について

第2回

開催日時：平成23年4月27日（水）

議 事：1. 平成23年度の計画について（教員からのアンケートをもとに）

第3回

開催日時：平成23年5月30日（月）

- 議 事： 1. FDカンファレンスの発表者について
2. 教員相互授業参観について
3. 特別講演の開催について
4. 教員の教育および研究テーマについて

第4回

開催日時：平成23年6月29日（水）

- 議 事： 1. FD特別講演について
2. 教員相互授業参観の公開日について

第5回

開催日時：平成23年10月5日（水）

- 議 事： 1. FD特別講演について
2. 後期教員相互授業参観の公開日について
3. 月のFDカンファレンスの日程について
4. FDカンファレンスについて
5. 平成24年度新規予算要求について

第6回

開催日時：平成24年2月22日（水）

- 議 事： 1. 平成23年度のまとめと平成24年度に向けて

FD委員会名簿

委員長—山田和子

副委員長—鹿村真理子

委員—石村由利子、内海みよ子、水田真由美、岡本 光代、角 真理、佐々木真次

開催したFD一覧

第1回

開催日時：平成23年6月1日（水）

演題1：助産学の中の主観と客観

演者：保健看護学部 教授 石村 由利子

演題2：地域住民における心血管病危険因子の現状とその予防

演者：保健看護学部 教授 有田 幹雄

参加者数：教員約30人

第2回

開催日時：平成23年7月6日（水）

演題1：よりよい授業を求めて

演者：保健看護学部 教授 西村 賀子

演題2：脳波解析の基礎と応用

演者：保健看護学部 准教授 宮井 信行

参加者数：教員約30人

第3回

開催日時：平成23年9月7日（水）

演題1：皮膚・排泄ケア領域に根ざした実践・教育・研究～過去から現在へ～

演者：保健看護学部 准教授 宮嶋 正子

演題2：小児がん患児・家族への生活中心型支援における協働システムに関する研究

演者：保健看護学部 助教 岡本 光代

参加者数：教員約30人

第4回

開催日時：平成23年10月5日（水）

演題：助産と心理臨床の協働

演者：保健看護学部 講師 瀧川 由美子

演題2：科研費取得のために工夫したこと

演者：保健看護学部 講師 武用 百子

参加者数：教員約30人

第5回

開催日時：平成23年11月2日（金）

演題1：高齢者の認知機能防止に有効な神経心理学的モデルの構築

演者：保健看護学部 准教授 岩原 昭彦

演題2：手指を介した感染予防に貢献できる研究を目指して

演者：保健看護学部 講師 池田 敬子

参加者数：教員約30人

第6回

開催日時：平成23年12月7日（水）

演題1：女性SLE患者が抱くボディイメージの認識とその構造化

演者：保健看護学部 助教 前田 祥子

演題2：造血幹細胞移植患者を支えたサポートと療養体験の意味づけに関する研究

演者：保健看護学部 助教 山口 昌子

参加者数：教員約30人

第7回

開催日時：平成24年1月4日（水）

演題1：地域看護実習における健康教育について

演者：保健看護学部 助教 谷野 多見子

演題2：手の加温と高齢者の睡眠との関連の検証

演者：保健看護学部 助教 岩根 直美

参加者数：教員約30人

第8回

開催日時：平成24年2月1日（水）

演題1：急性期看護実習について

演者：保健看護学部 助教 工藤 貴子

演題2：健康政策研究

演者：保健看護学部 助教 石井 敦子

参加者数：教員約30人

第9回

開催日時：平成24年3月7日（水）

演題1：研究：30年の概要

演者：保健看護学部 教授 飯田 美代子

演題2：老年看護実習

演者：保健看護学部 助教 石谷 朋子

参加者数：教員約30人

発行した冊子

保健看護学部では、平成23年度に以下の1冊の冊子を発行しました。

平成23年度保健看護研究Ⅱ報告書

平成23年度4年生による保健看護研究Ⅱの報告書（21編）です。

発行年月：平成24年3月

編集：和歌山県立医科大学保健看護学部

発行者：和歌山県立医科大学保健看護学部

保健看護研究Ⅱ報告書は、平成16年の4年制大学への移行以来、毎年刊行されています。

平成23年報告書は、保健看護学部第5期生がほぼ1年間かけて取り組んだ報告書・論文を取りまとめたものであります。研究の過程において、自ら感じた疑問や問題をこれまで学んだ知識を活かして論理的な思考で解決方法を考えること、あるいは自ら主体的に取り組んでいることがわかる報告書です。



平成23年度に取り組んだ事業

第3回和歌山県立医科大学保健看護学会

和歌山県立医科大学保健看護学部設立の理念を継承し、保健看護学の進歩発展と卒業生および教職員など相互の研鑽・親睦をはかり、地域の総合的な保健医療の推進、向上のために貢献することを目的として、和歌山県立医科大学保健看護学会を設立いたしました。第3回 和歌山県立医科大学保健看護学会は第1回から継続している「連携・研鑽・飛躍」を学会のテーマとして開催しました。

1) 日 時：平成23年8月6日（土）

2) 会 場：保健看護学部大講義室

3) 日 程 表：9:50～開会挨拶

10:00～11:50 シンポジウム

テーマ：働き続けることの魅力

シンポジスト

塩崎 万起 （和歌山県警察本部厚生課／産業保健師）

外山 誠 （NPO在宅ケア協会）

井上 潤 （南和歌山医療センター／専門看護師）

桶谷 あすか（熊取町立南小学校／養護教諭）

座 長：志波 充 （和歌山県立医科大学保健看護学部）

11:50～12:10 総会

13:00～14:00 特別講演

テーマ：看護研究が医療を動かす－褥瘡研究を例に－

講演者：真田 弘美（東京大学大学院医学系研究科創傷看護学分野）

座 長：有田 幹雄（和歌山県立医科大学保健看護学部）

14:00～16:00 一般演題発表

16:00 閉会

17:00～18:00 懇親会

4) 参 加 者：卒業生等148名、教員34名、学部生19名 計 201名

保健 看護 学会

第1期

第3回
和歌山県立
医科大学

8.6

平成23年
SAT.

job theme

保健看護の未来を
今のあなたにつなげる

飛躍

main theme

研鑽

連携

学会代表 有田幹雄
本誌学芸員 志波 元

プログラム概要

9:00	受付
9:50	開会挨拶
10:00	特別講演 シンポジウム 一般演題発表
	総会など
16:00	閉会

学会終了後、同窓会、懇親会等を予定しています。

会場：和歌山県立医科大学保健看護学部内

和歌山県立医科大学
保健看護学会
WAKAYAMA MEDICAL UNIVERSITY
SOCIETY OF
HEALTH MANAGEMENT SCIENCE

6.15

和歌山
WED

演題(抄録)申込締切

7.1

和歌山
FRI

参加申込締切

3月下旬をめぐり

和歌山県立医科大学ホームページに詳細を掲載いたしますので、ご確認をお願いいたします。

<http://www.wakayama-med.ac.jp>

→ 卒業生の方へ → 各種情報：保健看護学会
の中に、演題申込などの詳細を記載

(和歌山県立医科大学保健看護学部内)
〒641-0611 和歌山県和歌山市三番350
Tel. 073-440-0750
FAX 073-440-0770
<http://www.wakayama-med.ac.jp>
hokenti@wakayama-med.ac.jp

平成23年度学生自主カリキュラムの取組

1. 緩和ケアの役割とチーム医療

滝 逸子（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

太田 桜子（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

和歌山県橋本市の紀和病院と大阪府箕面市のガラシア病院を訪問し、緩和ケア病棟の見学を行った。緩和ケア病棟で活躍する医療従事者から話を聞くことにより、緩和ケアのあり方について、多くのことを学ぶことができた。

2. 東日本大震災被災地の「今」を知る。

～1年後の南三陸町を訪れて～

中谷 奈央（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

赤阪 美代（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

西出 智咲（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

東日本大震災から一年が経過した今、被災地のニーズを知ることがを目的としてボランティア活動を行った。被災地の方から直接震災の経験や現況について話を聞くことにより、これからも被災地のことを忘れずに復興に向けて、ボランティア活動の継続を望んでいることを知ることができた。

3. 東北地方太平洋沖大震災の被災地におけるボランティアを通してこれからの私たちにできることを考える

東田 美波（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

平見 有紗（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

東北地方太平洋沖大震災の被災地を訪問し、今後の自分たちにできることについて考えるため、清掃のボランティア活動に参加した。現地の方から自分のためでなく他人のために命を落とされた方がたくさんいたことを教えていただき、看護師を目指す自分たちはどうあるべきか考える貴重な機会を得ることができた。

4. 災害時の衛生面について トイレ環境

吉武沙恵子（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

山中ひなえ（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

東日本大震災の被災地でのボランティア活動に参加し、被災地での生活環境や衛生状態について調査を行った。災害時には、飲料水の確保とともに、トイレや衛生問題についても、対策を準備しておくことが必要であることがわかった。

5. 三葛の子どもたちを対象とした健康教室の実施について

足立悠美子（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）
大野 弥生（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）
神崎 成美（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）
城本 真美（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

和歌山市三葛地区の小学生を対象に、健康に対する興味や関心を高めるため、食事作りや手洗い、歯磨きの方法について教室を開いた。子ども達との交流を通じ、楽しみながら、バランスの良い食事作りや手洗い、歯磨きの大切さを伝えることができた。

6. パーソンセンタードケアを知る

高居 弥生（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）
橋本 真（和歌山県立医科大学医学部2年）
堂前 有紀（和歌山県立医科大学医学部1年）

パーソンセンタードケアを知るために、高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫を訪問した。施設の方からお話を聞き、利用者の方と交流することにより、パーソンセンタードケアへの理解を深めることができた。

7. 統合失調症の当事者施設を訪れる

慈幸 華也子（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）
長島 真純（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

北海道浦河町にある社会福祉法人浦河べてるの家を訪問し、施設見学を行った。べてるの家独自の取り組みである当事者研修を見学することができ、統合失調症の人やパニック障害の人に対する理解を深めることができた。

8. ろう者の声を聴く ～特別支援学校と神戸を訪れて～

内田 みわ（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）
梅田 春菜（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）
神崎 早紀子（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）
菊本 聖子（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）
山本 朱香（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

災害時にろう者の方に対し、どういうことができるかを考えるために和歌山ろう学校と阪神淡路大震災で被害を受けた神戸ろうあハウスを訪問した。施設の方から、避難訓練や災害対策の現状についてお話を聞き、多くのことを学ぶことができた。

9. 今に続く枯れ葉剤の影響～ベトナムの視点から～

永久 綾子（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

状家 莉保（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

ベトナム戦争で大量に散布された枯葉剤の影響が今も続いているベトナムでの医療の現状について調べるためにベトナムのツーザー病院を訪問した。約50年経過した今も枯葉剤の影響で重度の障害を持って生まれる子どもが多くいる現状を知ることができた。

10. 日本高血圧学会への参加「大学生における血圧と食塩摂取量および食生活の関連」

長野 汐梨（和歌山県立医科大学保健看護学部4年）

高橋 真麻（和歌山県立医科大学保健看護学部4年）

中原 梓（和歌山県立医科大学保健看護学部4年）

中本 啓太（和歌山県立医科大学保健看護学部4年）

横山 絵理奈（和歌山県立医科大学保健看護学部4年）

大学生における血圧と食塩摂取量および食生活の関連について、学生46名を対象として、アンケート調査やデータ収集を行い、調査結果について、第34回日本高血圧学会総会で発表した。

11. 東日本大震災から学ぶ

～ボランティア活動を通して考える、今後の支援のあり方～

岡野 友紀子（和歌山県立医科大学保健看護学部4年）

横堀 満帆（和歌山県立医科大学保健看護学部4年）

稲垣 あずな（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

災害医療と防災対策についてボランティア活動を通して考えるため、岩手県大槌町で瓦礫撤去のボランティア活動に参加するとともに、和歌山市で街頭募金活動と防災パンフレットの配布を行った。また、和歌山県医療救護班として派遣された教員の方から現地での支援活動について話を聞くことにより、いろんな視点から支援のあり方について学ぶことができた。

臨床技能研修センター

和歌山県立医科大学臨床技能研修センター設置及び管理・運営規程

制 定 平成18年11月14日和医大規程第 313 号

最終改正 平成 22 年 4 月 1 日和医大規程第 14 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、和歌山県立医科大学内に設置する臨床技能研修センターの使用に関して、必要な事項を定めるもので、施設・備品の円滑かつ良好な管理・運営を図ることにある。

(設置)

第 2 条 和歌山県立医科大学内に臨床技能研修センターを設置する。

2 臨床技能研修センターには、次の研修室を設置する。

- (1) 基本的手技研修室
- (2) 外科的手技研修室
- (3) B L S ・ A C L S 研修室
- (4) 模擬病室

(目的)

第 3 条 臨床技能研修センターは、和歌山県立医科大学の学生、同附属病院の研修医をはじめとする教職員、さらには地域医療支援のため、地域医療機関等の医療従事者の臨床技能の習得・向上及び安全管理の確立を図ることを目的に設置するものである。

(審議)

第 4 条 臨床技能研修センターの管理・運営に関する重要事項については、教育研究開発センターの臨床技能教育部会で審議する。

(管理者の設置)

第 5 条 臨床技能研修センターの管理・運営及び教育支援を行う管理者をおく。

- 2 管理者は、教育研究開発センター長をもって充てる。
- 3 臨床技能研修センターに関する事務は、教育研究開発センターが所管する。

(管理者の業務)

第 6 条 臨床技能研修センターの管理者の業務は、次のとおりとする。

- (1) 臨床技能研修センターの使用の管理
- (2) 臨床技能研修センターの施設・備品の管理
- (3) 使用者への技術指導
- (4) 使用対象者への広報活動
- (5) 教育研究開発センター臨床技能教育部会への管理・運営報告
- (6) その他、臨床技能研修センターの管理・運営に必要な業務

(使用対象者)

第7条 臨床技能研修センターを使用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 和歌山県立医科大学に在籍する学生、大学院生、研究生、研修生、大学院研究生及び博士研究員
- (2) 和歌山県立医科大学及び同附属病院に所属する研修医及び教職員
- (3) 教育研究開発センター、卒後臨床研修センター等、学内組織が主催または共催する講習会に参加する者
- (4) 地域医療機関の医療従事者
- (5) その他、管理者が適当と認めた者

(使用内容)

第8条 臨床技能研修センターの使用内容は、次のとおりとする。

- (1) 学生対象の臨床実習準備教育
- (2) 学生対象の臨床実習中の臨床技能教育
- (3) 研修医対象の卒後研修中の臨床技能研修
- (4) 院内・外の医療従事者等対象の臨床技能講習
- (5) 学生、研修医、医師、看護師、救命救急士、市民等対象のBLS・ACLS講習
- (6) 院内の研修医及び教職員対象の安全管理教育
- (7) 第1号から第3号に係る予習・復習等の自己訓練
- (8) その他、管理者が必要と認めた場合

(使用日時)

第9条 臨床技能研修センターを使用できる日は、土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）及び本学創立記念日を除く日とする。ただし、管理者が特に必要と認めるときは、この限りではない。

2 臨床技能研修センターを使用できる時間は、原則として午前9時から午後5時までとする。ただし、管理者が特に必要と認めるときは、この限りではない。

(使用申込)

第10条 臨床技能研修センターを使用するときは、使用予定日の1か月前から前日までに、臨床技能研修センター使用承認申請書（別紙様式）を管理者に提出し、承認を得なければならない。

2 使用の承認を受けた者が、承認された使用日時等を変更するときは、事前に管理者の承認を得なければならない。

3 使用の承認を受けた者が、使用を中止しようとするときは、速やかに管理者に届け出なければならない。

(使用承認)

第11条 使用の承認は原則として予約先着順とする。ただし、第8条第1号から第6号までに規定するものについては、優先して使用させることができる。

2 予約の重複については、教育研究開発センターにて調整を実施し、管理者が決定を行う。

(使用承認の取り消し等)

第12条 使用の承認を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、使用承認を取り消すことがある。

- (1) 使用承認の目的に反したとき。
- (2) 目的以外の使用又は又貸しをしたとき。
- (3) 本規程の取り決めに違反したとき。
- (4) 管理・運営上の支障が生じたとき。

2 大学において実習の実施等緊急に必要なが生じたときは、使用承認の取り消し、又は使用の条件変更を行うことがある。

(使用方法)

第13条 臨床技能研修センターの使用にあたって、教育研究開発センターの事務取扱時間内のときは、使用時間直前に、同センター係員に身分証明書を提示し、使用承認の確認を受けたうえで使用すること。

2 臨床技能研修センターの使用にあたって、教育研究開発センターの事務取扱時間外のときは、事務取扱時間内に、同センター係員に身分証明書を提示し、使用承認の確認を受けたうえで、鍵（カード）の貸し出しを受け、使用者が解錠すること。

3 事務取扱時間外に臨床技能研修センターを使用した者は、使用を終え次第、戸締まりの確認をしたうえで、鍵を閉めて、速やかに鍵（カード）を教育研究開発センターに返却するものとする。

(自己責任)

第14条 臨床技能研修センターの使用にあたっては、実習指導教員の指導のもとに行うよう努めるものとする。

2 臨床技能研修センターの備品を使用する者は、事前に使用方法を理解・習熟していなければならない。なお、使用方法については、教育研究開発センターが適宜、講習会、ビデオ、説明書などを用いて研修を実施するものとする。

3 臨床技能研修センターの使用者に、万が一事故が生じたときの責任は、使用者本人が負うものとする。

(遵守事項)

第15条 臨床技能研修センターの使用者は、次の事項を遵守するとともに、管理者及び教育研究開発センター係員の指示に従わなければならない。

- (1) 常に良識ある行動をとり、秩序・風紀の維持及び設備・備品の保全に努めること。
- (2) 使用目的以外の用途には使用しないこと。
- (3) 設備・備品を断りなく改変しないこと。
- (4) 設備・備品を断りなく室外に移動しないこと。

- (5) 常に整理整頓に努めること。
- (6) 使用を終了したときは、設備・備品を使用前の状態に戻すこと。
- (7) 使用済みの注射針等の医療系廃棄物は、所定の容器に廃棄すること。
- (8) 設備・備品を損傷、汚損、紛失しないこと。
- (9) ごみは各自持ち帰ること。
- (10) 飲食・喫煙をしないこと。
- (11) 火気を使用しないこと。
- (12) 使用時間を厳守すること。
- (13) 使用を終えたときは、消灯、空調機器の停止、窓の戸締まりを行うこと。
- (14) 金銭等の貴重品は各自が責任をもって管理すること。
- (15) 設備・備品の取扱いは、各自が責任をもって行うこと。

(備品の使用と報告)

第16条 臨床技能研修センターの備品のうち、保管している消耗品等の使用を予定している者は、使用承認申請書にその旨を記載し、承認を得たうえで、教育研究開発センターの事務取扱時間中に同センター係員に申し出て、立ち会いのうえ、借り受けるものとする。また、使用後も同センター係員立ち会いのうえ、消耗品等の使用済数及び残数を確認のうえで、使用済分は破棄し、未使用分を返却するものとする。なお、使用終了が教育研究開発センターの事務取扱時間外の場合は、日を改めて、事務取扱時間中に同センター係員に残数の確認を受け、未使用分を返却するものとする。

2 備品のうち、注射針等については、原則として教育研究開発センターの事務取扱時間外には、使用することができない。ただし、実習指導教員の指導のもとで使用するときは、この限りではない。

(貸し出し)

第17条 臨床技能研修センター外で備品の使用を希望する者は、事前に教育研究開発センターに申し出て、所定の手続きを行うものとする。ただし、同センター外で備品を使用できるのは、教育研究開発センター、卒後臨床研修センター等、学内組織が主催または共催する講習会等を実施するときに限る。

(費用負担)

第18条 臨床技能研修センターにおいて使用した消耗品及び施設・備品の運営に伴う費用負担は別途定めるものとする。

(損傷等の措置)

第19条 臨床技能研修センターの利用者が故意又は重大な過失によって、施設又は設備・備品等を損傷又は紛失したときは、直ちに教育研究開発センターに届け出て、その指示を受けなければならない。また、これによって生じた損害又はその原状回復に必要な経費を弁償しなければならない。

2 臨床技能研修センターの利用者は、使用した備品等に不具合があったときは、直ちに

教育研究開発センターに届け出るものとする。

(雑則)

第20条 この規程に定めるもののほか、管理・運営に関して必要な事項は、管理者が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成18年11月14日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

臨床技能研修センターの利用方法

原則として月曜～金曜（祝日を除く）の午前9時から午後5時にご利用いただけます。

（上記以外でご利用される場合は、教育研究開発センターにご連絡ください。）

<予約方法>

使用予定日の1か月前から前日までに、使用を申請してください。ご使用には管理者の承認が必要です。ご予約は、

- (1) 使用承認申請書を教育研究開発センターへ提出、もしくはFAXで送信
- (2) オンライン上での申し込み（臨床技能研修センターホームページ内、予約申請フォームからの申し込み）が出来ます。

The image shows a screenshot of a web browser displaying the reservation form for the Clinical Skills Training Center. The page title is "臨床技能研修センター利用予約フォーム". The form includes fields for "予約団体名" (Reservation Group Name), "予約日" (Reservation Date), "予約時間" (Reservation Time), and "予約人数" (Reservation Number). There are also checkboxes for "予約内容" (Reservation Content) and "予約理由" (Reservation Reason). The form is set against a light green background with a navigation menu at the top.

臨床技能研修センターHP 利用予約フォーム画像

臨床技能研修センター使用承認申請書

年 月 日

和歌山県立医科大学臨床技能研修センター管理者
教育研究開発センター長 様

所属部署 または 学年
申請者（使用責任者）氏名
連絡先（電話番号）

以下のとおり、使用の承認を申請いたします。

1. 使用の目的
2. 使用室名 使用を希望する部屋名にチェック記号をして下さい。
BLS・ACLS 研修室① BLS・ACLS 研修室②
基本的な手技研修室 外科的な手技研修室 模擬病室
3. 使用物品

4. 期間 年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分まで

5. 利用者数：約 人

利用者の内訳

団体名	学外者	学内者
	人	人
	人	人
	人	人

6. 使用する消耗品

物品名	数量
	個
	個
	個

7. 物品を施設外に持ち出して使用する場合

持ち出し場所	
返却責任者	

臨床技能研修センター使用承認申請書

<予約状況の確認>

予約日程表 (<http://www.wakayama-med.ac.jp/clinical/schedule/index.php>) で予約状況を確認してから申請してください。

申請後2～3日で承認作業を行います。予約が確定したことを予約日程表で確認してください（原則として予約先着順となります）。

センターの備品一覧

品名	個数	用途
ハートシム	1	救命処置訓練(気道確保、バックバルブマスク換気、除細動など)
レサシアン(全身タイプ)	1	BLS 訓練、AED 実技訓練
大型静脈穿刺パッド	30	静脈穿刺トレーニング
胸部ドレーンシミュレーター	1	胸腔ドレナージ手技練習
手背静脈注射シミュレーター	1	静脈穿刺手技練習
小児の手背静脈穿刺シミュレーター	1	乳幼児への静脈注射・採血、点滴静注手技練習
動脈穿刺シミュレーター	1	動脈穿刺・動脈血採取トレーニング
腰椎穿刺シミュレーター	1	腰椎穿刺、硬膜外麻酔、腰椎麻酔
CVC 穿刺シミュレーター	1	中心静脈穿刺手技練習
新型採血静脈穿刺シミュレーター “シンジョー”	4	採血手技練習、静脈内注射
縫合手技評価シミュレーター	1	外科縫合手技のトレーニング
神経血管腕モデル	1	
皮内注射シミュレーター	1	皮内注射手技練習
外科手洗い台	2	手洗いトレーニング(2人用)
グリッターバグセット	4	手洗いトレーニング
腹腔鏡	1	腹腔鏡手技トレーニング
MATT トレーナー	1	腹腔鏡手技トレーニング
内視鏡	1	内視鏡手技トレーニング
マーゲンシミュレーター	2	内視鏡手技トレーニング
眼底診察	5	眼の診察練習
耳の診察	5	耳の診察練習

品名	個数	用途
超音波トレーニングシミュレーター (UltraSim)	1	エコー診断のトレーニング
イチロー&ラング	1	心音・肺音聴診練習
心臓病診察(イチロー)	1	心音聴診練習
Mr.ラング(スピーカー有)	1	肺音聴診練習
Mr.ラング(スピーカー無)	1	肺音聴診練習
直腸診シミュレーター	4	直腸診トレーニング
男性導尿法シミュレーター	3	男性導尿法手技練習
ナーシングアン	5	患者ケアトレーニング
救急ケアシミュレーター(ECS)	1	患者ケアトレーニング
除細動機	1	
人工呼吸器(VELA)	1	救急ケアシミュレーターに接続可能
生体情報モニタ	1	救急ケアシミュレーターに接続可能
輸液ポンプ	1	点滴静脈内注射手技練習
シリンジポンプ	1	点滴静脈内注射手技練習
レサシアン(半身タイプ)	9	BLS 訓練、AED 実技訓練
リトルジュニア	7	BLS 訓練、AED 実技訓練
ベビーアン	7	BLS 訓練、AED 実技訓練
Ambubaby	1	BLS 訓練
チョーキングチャーリー	2	ハイムリッヒ法訓練
ポケットマスク	10	人工呼吸訓練
AED トレーナー	AED 実技訓練(ルールダル:7、メドトロニック:5、日本光電:5)	
エアウェイトトレーニングシステム	2	気管内挿管手技練習
SimNewB	1	新生児領域の教育カリキュラムに対応
新生児気道管理トレーナー	3	新生児の気道管理トレーニング

品名	個数	用途
Neonatal Resuscitation Baby	3	新生児蘇生トレーニング
新生児挿管モデル	1	気管内挿管手技練習
気管切開トレーナー	1	気管切開手技練習
バックバルブマスク		成人用:3、小児用:2、乳児用:2新生児用:3
男性骨盤	4	直腸診等練習
女性骨盤	3	女性骨盤部内診練習
前立腺触診	1	前立腺触診練習
前立腺触診シミュレーターB型	4	前立腺触診練習
乳房検診	3	乳房の触診練習
乳癌検診	4	乳癌触診練習
口腔ケアモデル“セイケツくん”	5	口腔内清潔手技練習
褥創ケアモデル	1	
吸引シミュレーター“Qちゃん”	2	吸引手技練習
吸引モデルⅡ型	2	吸引手技練習
携帯用小型吸引器	2	吸引手技練習
大型吸引機	2	吸引手技練習



使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					学内	学外	
4月5日 12時～18時	卒後臨床研修センター	オリエンテーション	採血シミュレーター“シンジョー”2台、シリンジポンプ	有	60	0	医師
4月5日 12時～5月5日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	2	0	医師
4月6日 9時～7日 17時	医学部5年生	医療問題ロールプレイ	車椅子、ポケットマスク	有	15	0	学生
4月7日 14時～8日 20時	医学部5年生	医療問題ロールプレイ	車椅子	有	10	0	学生
4月7日 12時～5月6日	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	医師
4月8日 9時～19時	卒後臨床研修センター	オリエンテーション	レサシアン9体、レサシアン(全身タイプ)1体、AEDトレーナー16台	有	60	0	医師
4月8日 19時～9日 19時	麻酔科・AHA公認日本ACLS協会和歌山トレーニングサイト	一次心肺蘇生法講習会	レサシアン6体、ベビーアン6体、チョーキングチャージャー2体、Neonatal Resuscitation Baby3体、AEDトレーナー17台、バックバルブマスク3個	有	15	0	医師
4月11日 9時～20時	医学部5年生	医療問題ロールプレイ	衝血、ストレッチャー2台、レサシアン1体	有	3	0	学生
4月11日 10時～11時	卒後臨床研修センター	採血トレーニング	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”	有	1	0	医師
4月11日 14時～15時	卒後臨床研修センター	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”	有	1	0	医師
4月15日 16時～17日 19時	麻酔科・AHA公認日本ACLS協会和歌山トレーニングサイト	二次心肺蘇生法(ACLS)講習会	ハートシム1体、除細動機、レサシアン3体、AEDトレーナー3台、バックバルブマスク3個		10	10	20
4月18日 12時30分～13時	卒後臨床研修センター	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		2	0	2
4月18日 13時～15時	卒後臨床研修センター	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		2	0	2
4月18日 13時30分～19日 13時	麻酔科	臨床実習指導	気管挿管手技解説DVD	有	6	0	6
4月20日 17時～20時	卒後臨床研修センター	勉強会	エコー		10	0	10
4月21日 19時30分～20時30分	卒後臨床研修センター	中心静脈カテーテル挿入の練習	CVC穿刺シミュレーター		3	0	3
4月21日 16時～17時	第二内科	研修医の教育	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		3	0	3
4月22日 14時30分～16時	第二内科	学生と研修医への教育	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		9	0	9
4月22日 18時～20時	卒後臨床研修センター	勉強会	エコー		10	0	10
4月22日 9時～11時30分	附属病院9階東病棟	新人研修	ベッド、車椅子		6	0	6
4月26日 12時～13時	卒後臨床研修センター	採血トレーニング	採血シミュレーター“シンジョー”		2	0	2
4月26日 16時～17時	卒後臨床研修センター	内視鏡研修	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		2	0	2
4月27日 9時～28日 13時	麻酔科	後期研修医への臨床指導	CVC穿刺シミュレーター	有	10	0	10
4月27日 13時～17時	助産学専攻科	超音波検査の講義	エコーシミュレーター“ウルトラシム”		13	0	13
4月28日 15時～16時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡と腹腔鏡の練習	腹腔鏡シミュレーター、内視鏡シミュレーター		4	0	4
4月30日 13時～16時	卒後臨床研修センター	CVCおよび腰椎穿刺の手法練習	CVC穿刺シミュレーター、腰椎穿刺シミュレーター		3	0	3

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					学内	学外	
5月2日 9時～5日 20時	卒後臨床研修センター	トレーニング	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”、エコー	有	3	0	3
5月2日 12時～6月2日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	1
5月6日 11時～12時	卒後臨床研修センター	習練	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		2	0	2
5月8日 17時～19時	卒後臨床研修センター	CVカテーテル挿入術の手法練習	CVCシミュレーター		3	0	3
5月12日 15時～18時	看護部	新人看護師研修	ナーシングアン3体、採血シミュレーター“シンジョー”4台、車椅子4台	有	80	0	80
5月13日 12時～16日 13時	麻酔科	医学部学生、研修医に対する指導	気管挿管手技解説DVD	有	6	0	6
5月13日 13時30分～17日 9時30分	保健看護学部	授業	グリップパッド3台	有	89	0	89
5月13日 16時～17時	卒後臨床研修センター	トレーニング	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”、エコー	有	2	0	2
5月17日 19時～15時	麻酔科	研修医の指導	CVCシミュレーター	有	1	0	1
5月17日 17時30分～19時30分	第一内科	研修医勉強会	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”、内視鏡、マーゲンシミュレーター		8	0	8
5月18日 14時～16時	看護部	教育研究開発センター	なし		6	8	14
5月19日 15時～18時	看護部	和歌山SPの会	ナーシングアン3体、採血シミュレーター“シンジョー”4台、車椅子4台		80	0	80
5月20日 9時30分～12時30分	卒後臨床研修センター	習練	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”	有	2	0	2
5月23日 9時～25日 12時	附属病院CCU	医学部実習	ハートシム1体、バックバルブマスク1個、AEDトレーナー1台		14	0	14
5月23日 14時30分～17時	教育研究開発センター	『BLSレクチャー』	レサシアン7体、AEDトレーナー7台、マット14枚		30	0	30
5月25日 15時～18時	看護部	新人看護師研修	ナーシングアン3体、採血シミュレーター“シンジョー”4台、車椅子4台		80	0	80
5月26日 17時～17時	助産学専攻科	新生児蘇生講習会	新生児蘇生人形2体、新生児挿管人形2体、吸引器2台		13	0	13
5月27日 17時～20時30分	医療安全推進室	エコーガイド下 CVC穿刺講習会	CVC穿刺シミュレーター、CVC穿刺バッド8個		17	0	17
5月29日 9時～18時	脳神経外科	IS-LS講習会	なし		10	20	30
5月30日 14時30分～17時	教育研究開発センター	『BLSレクチャー』	レサシアン7体、AEDトレーナー7台、マット14枚		30	0	30
5月31日 15時～18時	看護部	新人看護師研修	ナーシングアン3体、採血シミュレーター“シンジョー”4台、車椅子4台		80	0	80

使用申請件数(4月) 26件 使用申請件数(5月) 21件

272人 20人 292人

21件 28人 565人

557人 28人 565人

21件 28人 565人

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用者の内訳 学内	使用者の内訳 学外	
6月1日 13時～17時	産科手術 会陰縫合	産科手術 会陰縫合	なし		13	0	学生
6月1日 17時～19時30分	看護部	研修	ナーシングアーン2体		25	0	看護師
6月3日 15時～4日 17時	整形外科	研修	なし		10	10	医師
6月6日 14時30分～17時	教育研究開発センター	医学部体育授業「BLSレクチャー」	レサリアン7体、AEDトレーナー7台、マット14枚		30	0	学生
6月6日 17時～8日 17時	救急集中治療部	BLS講習	レサリアン3体、AEDトレーナー3台、バックハルブマスク3個	有	1	3	医師
6月7日 15時～17時	第一内科	学生教育	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」		4	0	医師
6月7日 17時30分～20時	第一内科	下部内視鏡研修	内視鏡、大腸内視鏡シミュレーター		5	0	医師
6月8日 14時～16時	教育研究開発センター	和歌山SPの会			6	0	医師
6月8日 17時30分～20時	第一内科	下部内視鏡研修	内視鏡、大腸内視鏡シミュレーター		5	0	医師
6月9日 17時30分～20時	第一内科	下部内視鏡研修	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」		5	0	医師
6月10日 13時～17時30分	卒後臨床研修センター	下部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」		7	0	医師
6月10日 17時30分～20時	第一内科	下部内視鏡研修	内視鏡、大腸内視鏡シミュレーター		5	0	医師
6月11日 17時30分～20時	第一内科	下部内視鏡研修	内視鏡、大腸内視鏡シミュレーター		5	0	医師
6月12日 9時30分～20時	第一内科	下部内視鏡研修	内視鏡、大腸内視鏡シミュレーター		5	0	医師
6月13日 10時～12時	卒後臨床研修センター	下部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」		2	0	医師
6月13日 14時30分～17時	教育研究開発センター	医学部体育授業「BLSレクチャー」	レサリアン7体、AEDトレーナー7台、マット14枚		30	0	学生
6月15日 17時～17時30分	卒後臨床研修センター	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」		1	0	医師
6月16日 15時30分～16時30分	卒後臨床研修センター	平成23年度近畿管内特定機能病院グループ別連絡会議	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」、内視鏡、マーゲンシミュレーター		2	0	医師
6月17日 15時～16時	医療安全推進室	トレーニング	高機能シミュレーターECS、CVC穿刺シミュレーター		5	17	医師
6月17日 15時～16時	卒後臨床研修センター	トレーニング	エコー		3	0	医師
6月17日 16時45分～18時30分	第一内科	内視鏡練習	内視鏡、大腸内視鏡シミュレーター		5	0	医師
6月17日 12時～20日 17時	教育研究開発センター	医学部試験「Advanced osce」	肺音シミュレーター「Mr.Lung」2台、衝立8枚	有	60	0	学生
6月20日 16時45分～18時	第一内科	内視鏡練習	内視鏡、大腸内視鏡シミュレーター		5	0	医師
6月21日 13時～14時30分	教育研究開発センター	医学部講義「ケアマインド教育」	救急ケアシミュレーター、心音シミュレーター「イチロー」、採血シミュレーター「シンジヨー」、グリッターバグ		100	0	学生
6月21日 15時～16時	卒後臨床研修センター	トレーニング	エコー		4	0	医師
6月22日 16時～19時	学生BLSサークル	BLS講習	レサリアン5体、ベビーアーン2体、AEDトレーナー5台、マット8枚、アキョキョーキンググチャヤーリー1体		10	0	学生
6月24日 16時～19時	学生BLSサークル	BLS講習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ		10	0	学生
6月28日 12時～7月28日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	医師
6月30日 10時30分～12時	産婦人科	助産学専攻科講義	超音波シミュレーター「ウルトラシム」		11	0	学生

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用者の内訳 学内	使用者の内訳 学外	
7月1日 16時～17時	教育研究開発センター	大学説明会	救急ケアシミュレーター、心音シミュレーター「イチロー」、採血シミュレーター「シンジヨー」		5	30	一般来訪者
7月4日 11時～13時	卒後臨床研修センター	腹腔手術の練習	腹腔鏡シミュレーター		1	0	医師
7月5日 12時～8月5日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	4	0	医師
7月7日 9時30分～15時30分	企画研究課	観光医学講座座定講習会	レサリアン5体、AEDトレーナー10台、アキョキョーキンググチャヤーリー2体、マット10枚		8	12	一般来訪者
7月8日 12時30分～13時30分	卒後臨床研修センター	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」、内視鏡、マーゲンシミュレーター		2	0	医師
7月11日 14時～15時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ		5	0	医師
7月12日 9時～15日 17時	附属病院CCU	AGLS研修会	ハートシム、バックハルブマスク	有	7	0	看護師
7月14日 12時～8月14日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	看護師
7月16日 10時～18日 17時	卒後臨床研修センター	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」、内視鏡、マーゲンシミュレーター		1	0	医師
7月21日 14時30分～16時	第二内科	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」、内視鏡、マーゲンシミュレーター		4	0	医師
7月22日 15時～16時	第二外科	腹腔手術の練習	腹腔鏡シミュレーター、内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」		2	0	医師
7月22日 17時～24日 17時	卒後臨床研修センター	CVC穿刺の手法練習	CVCシミュレーター		2	0	医師
7月27日 16時～17時	第二内科	上部内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター「アキュタッチ」		1	0	医師
7月30日 12時～19時	総合周産期母子医療センター	新生児臨床講習会	新生児臨床人形3体、新生児挿管人形3体、吸引器3台		20	30	医師

使用申請件数(7月) 14件 63人 72人 135人

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用の内訳 学内	学外	
8月2日 9時～5日 18時	救急集中治療部	講習会	リトルジュニア2体、ペビーアン4体、チョーキングチャャーリー2台、AEDトレーナー5台	有	5	25	医師
8月2日 14時～10日 17時30分	附属病院CCU	ACLSデモンストラーション	ハートシム、バックバルブマスク	有	3	0	看護師
8月3日 17時～19時30分	看護部	研修	ナーシングミュレーター、Mr. Lung		25	0	看護師
8月3日 13時30分～16時30分	第一内科	研修	内視鏡ミュレーター“アキユツチ”、内視鏡、マーゲンジミュレーター		5	0	医師
8月4日 12時30分～14時	卒後臨床研修センター	手技向上のため	腰椎穿刺ミュレーター		3	0	医師
8月11日 13時30分～15時	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	内視鏡、マーゲンジミュレーター		3	0	医師
8月16日 12時～9月15日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ		1	0	医師
8月17日 11時30分～12時	第二内科	学生指導	内視鏡ミュレーター“アキユツチ”、アキユツチ”、内視鏡、マーゲンジミュレーター	有	3	0	医師
8月17日 15時30分～20時	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	内視鏡、マーゲンジミュレーター		2	0	医師
8月20日 12時～18時	教育研究開発センター	医学部オープンキャンパス	ECG、心音聴診ミュレーター“イチロー”、Mr. Lung、超音波シミュレーター、エコー、グリップバッグ4台、チョーキングチャャーリー	有	20	150	一般来訪者
8月25日 17時～9月30日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ		1	0	医師
8月24日 15時～16時30分	第二内科	技術改善のため	内視鏡、マーゲンジミュレーター		1	0	医師
8月26日 18時～28日 12時	麻酔科	心肺蘇生法講習会	レサンアン6体、リトルジュニア6体、ペビーアン6体、チョーキングチャャーリー2台、AEDトレーナー6台、バックバルブマスク3個		10	6	医師
				13件	82人	181人	263人
				18件	120人	50人	170人
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
9月2日 13時～7日 11時	附属病院CCU	BLSの練習	ハートシム、バックバルブマスク	有	4	0	看護師
9月2日 14時～16時	医学部5年生	静脈採血手技練習	新型静脈採血ミュレーター“シンジョー”、手背の静脈注射シミュレーター		2	0	学生
9月2日 17時～30日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	医師
9月16日 13時～30日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	医師
9月16日 17時～10月6日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	医師
9月8日 12時～13時	卒後臨床研修センター	CVC穿刺の手技練習	CVCミュレーター		1	0	医師
9月10日 7時～11日 20時	日本循環器学会	AHA・ACLSプロバイダーコース	ハートシム、バックバルブマスク2個、レサシアン3体、AEDトレーナー3台、プロジェクトー、スクリーン		10	20	医師
9月12日 13時～14日 17時	附属病院CCU	ACLSの練習	ハートシム、バックバルブマスク	有	4	4	看護師
9月14日 13時～16時	教育研究開発センター	和歌山SIPの会	プロジェクトー		6	8	一般来訪者
9月15日 15時～15時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	内視鏡、マーゲンジミュレーター		2	2	医師
9月17日 12時～17時	卒後臨床研修センター	研修医勉強会	ECG、人工呼吸器		30	5	医師
9月23日 12時～25日 19時	麻酔科	心肺蘇生法講習会	ハートシム、気道管理トレーナー、レサシアン(全身)、レサシアン3体、AEDトレーナー3台、バックバルブマスク3個、プロジェクトー2台、スクリーン2セット		10	7	医師
9月24日 9時～17時	卒後臨床研修センター	紀州レジデントセミナー	ECG、人工呼吸器	有	20	10	医師
9月26日 13時～13時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	内視鏡、マーゲンジミュレーター		1	1	医師
9月27日 9時～10月3日 17時	附属病院8階車庫棟	学習会	ハートシム	有	10	0	看護師
9月28日 16時～18時	和医大臨床技能サークル	ミーティング	新型静脈採血ミュレーター“シンジョー”		15	0	学生
9月28日 17時～10月3日 17時	医学部5年生	臨床実習の予習	和歌山県立医科大学ピデオ実演シリアルズ『気管挿管』	有	1	0	学生
9月29日 15時50分～16時10分	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	内視鏡、マーゲンジミュレーター		1	0	医師

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用の内訳	計	
					学内	学外	
10月4日 17時～19時	附属病院5階西病棟	BLS研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個	有	8	0	看護師
10月5日 17時～19時30分	看護部	研修	ナーシングアン2体		25	0	看護師
10月5日 18時～11日 17時	附属病院CCU	ACLSデモンストレーション	有		4	0	看護師
10月6日 13時～20時	附属病院5階西病棟	BLS研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個		2	0	看護師
10月13日 14時～14日 16時30分	看護部管理室	復帰支援(技術訓練)	新型静脈採血シミュレーター“シンジョー”1台	有	5	0	看護師
10月14日 17時～19時	附属病院5階西病棟	BLS研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個	有	8	0	看護師
10月14日 11時～11月14日 17時	附属病院5階研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	医師
10月14日 16時～17日 9時	総務課	DMAT技術維持研修	ホワイトボード2式	有	80	0	医師
10月16日 11時～18時	救急集中治療部	BLS講習会	レサシアン6体、AEDトレーナー6台、プロジェクター1台、スクリーン		1	30	医師
10月17日 17時～19時	和医大臨床技能サークル	BLS研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個		8	0	看護師
10月17日 17時～19時	和医大臨床技能サークル	サークル活動	新型静脈採血シミュレーター“シンジョー”4台、レサシアン7体、AEDトレーナー7台		15	0	学生
10月18日 14時30分～15時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡手術練習	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		2	0	医師
10月19日 10時～12時30分	第二外科	腹腔鏡手術の練習	腹腔鏡シミュレーター“プロミス”		2	0	医師
10月19日 14時30分～15時	卒後臨床研修センター	技術習練	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		3	0	医師
10月20日 9時～18時	看護部	研修	救急ケアシミュレーター、輸液ポンプ、生体情報モニタ、人工呼吸器		40	0	看護師
10月20日 18時～20時	第二外科	トレーニング	腹腔鏡シミュレーター“プロミス”		1	0	医師
10月21日 9時～24日 17時	救急集中治療部	和歌浦マラソン	ポケットマスク3個	有	3	0	医師
10月21日 13時～14時	卒後臨床研修センター	トレーニング	レサシアンシミュレーター“アキユタツチ”		4	0	医師
10月24日 12時～31日 11時	附属病院8階西病棟	BLS研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個	有	15	0	看護師
10月25日 16時～17時	卒後臨床研修センター	手技向上のため	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”、エコー		2	0	医師
10月26日 14時～16時	教育研究開発センター	和歌山SPの会			6	8	一般来訪者
10月27日 16時～21時	医療安全推進室	研修医への実技講習	CVC穿刺シミュレーター		15	0	医師
10月28日 13時30分～17時	総務課	災害訓練	ベビーアン1体	有	100	0	学生
10月28日 16時～19時	和医大臨床技能サークル	サークル活動	新型静脈採血シミュレーター“シンジョー”4台、レサシアン7体、AEDトレーナー7台		15	0	学生
			使用申請件数(10月) 24件		365人	38人	403人

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用の内訳	計	
					学内	学外	
11月4日 16時～6日 12時	医学部3年生	大学生の医療企画	高齢者体験スーツ4セット、握力計3個	有	20	200	学生
11月4日 16時～19時	学生BLSサークル	大学生のBLS講習会	レサシアン6体、AEDトレーナー6台		10	50	学生
11月6日 10時～12時	卒後臨床研修センター	CVC穿刺の手技練習	CVC穿刺シミュレーター、エコー		1	0	医師
11月8日 15時30分～17時	第二内科	研修医のためのレクチャー	内視鏡、マーネンシミュレーター、内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”		5	0	医師
11月9日 9時～17時	和歌山県看護協会	救急看護の研修	内視鏡シミュレーター9台、ハードシム1体、除細動機1台、バックバルブマスク2個、救急カート		2	50	看護師
11月11日 14時30分～14日 9時	附属病院CCU	ACLS技能習得	ハードシム、バックバルブマスク	有	6	0	看護師
11月14日 16時～19時	教育研究開発センター	和医大臨床技能サークル	血圧計5個、聴診器5個		13	0	学生
11月15日 17時～19時	第一内科	研修医向けの内視鏡研修	内視鏡シミュレーター“アキユタツチ”、内視鏡、マーネンシミュレーター		7	0	医師
11月16日 14時～16時	教育研究開発センター	捕管の練習	ハードシム、捕管セット		1	0	医師
11月17日 17時～22日 9時	附属病院CCU	ACLS技能習得	ハードシム、バックバルブマスク	有	11	0	看護師
11月17日 17時30分～20時	附属病院NICU	手技練習	男性導尿シミュレーター、ナーシングアン		3	0	看護師
11月18日 16時～21日 16時	附属病院9階西病棟	研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個、捕管セット	有	5	0	看護師
11月24日 13時～12月21日 9時	看護部	静脈注射トレーナー一研修	新型静脈採血シミュレーター“シンジョー”2台、手背静脈注射シミュレーター	有	120	0	看護師
11月24日 18時～21時	看護部	高卒の勉強会	レサシアン2体、バックバルブマスク、ジャクソンリース、除細動機、捕管セット		3	0	看護師
11月24日 17時～21時	医療安全推進室	初期研修医対象実技講習会	ハードシム、気道管理トレーナー、エアウェイトレーニングシステム、捕管セット3セット		18	0	医師
11月25日 18時～21時	看護部	急変の勉強会	レサシアン2体、バックバルブマスク、ジャクソンリース、除細動機、捕管セット		3	0	看護師
11月25日 13時30分～28日 11時	附属病院8階西病棟	学習会	ハードシム	有	10	0	看護師
11月27日 9時～17時	附属病院5階西病棟	急変の勉強会	レサシアン2体、除細動機、救急カート、生体情報モニタ		5	0	看護師
			使用申請件数(11月) 19件		249人	308人	557人

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用の内訳	計	
					学内	学外	
12月11日 17時30分～20時	附属病院10階東病棟	高変の勉強会	レサリアン2体、バックバルブマスク、ジャクソンリース、除細動機、挿管セット	有	5	0	看護師
12月3日 9時～18時30分	脳神経外科	和歌山SLS研究会	なし		15	25	医師
12月5日 11時～9日 12時	附属病院9階西病棟	BLS-ACLS	レサリアン1体、バックバルブマスク、挿管セット	有	5	0	看護師
12月5日 17時30分～18時30分	附属病院10階東病棟	高変の勉強会	レサリアン2体、バックバルブマスク、ジャクソンリース、除細動機、挿管セット		5	0	看護師
12月5日 17時30分～20時30分	附属病院9階西病棟	高変の勉強会	ナーシングアン、バックバルブマスク、挿管セット、吸引器、救急カート、モニタ		3	0	看護師
12月7日 17時～19時30分	看護部	新人看護師指導	ナーシングアン2体		25	0	看護師
12月9日 12時～19日 17時	附属病院7階西病棟	新人看護師指導	ハーシム、バックバルブマスク	有	6	0	看護師
12月11日 11時～17時	総合周産期母子医療センター	新生児蘇生講習会	新生児蘇生人形3体、新生児挿管人形3体、吸引器4台		20	20	医師
12月12日 17時30分～20時30分	附属病院8階西病棟	高変の勉強会	レサリアン、バックバルブマスク、挿管セット、吸引器、救急カート、モニタ	有	3	0	看護師
12月13日 12時～28日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ		1	0	医師
12月13日 17時30分～17時30分	卒後臨床研修センター	Eコー手術トレーニング	Eコー		1	0	医師
12月14日 17時30分～20時30分	附属病院NICU	看護技術予備	男性導尿シミュレーター、ナーシングアン		3	0	看護師
12月14日 17時30分～20時	附属病院9階西病棟	高変の勉強会	レサリアン、バックバルブマスク、挿管セット、吸引器、救急カート、モニタ		20	0	看護師
12月15日 15時～18時	看護部	新人研修	レサリアン6体、AEDトレーナー6台		40	0	看護師
12月16日 18日 23時	卒後臨床研修センター	純州レジデントセミナー	Eコー		30	20	医師
12月16日 17時～19時	和医大臨床技能サークル	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ		15	0	学生
12月16日 19時～22時	医療安全推進室	初期研修医対象実技講習会	腰椎穿刺シミュレーター		14	0	医師
12月19日 9時～18時30分	感染制御部	おむつ交換の研修会	ナーシングアン1体	有	30	0	看護師
12月20日 15時～17時	第二内科	学生の教育	内視鏡シミュレーター“アキユタツ”		4	0	医師
12月21日 14時～31日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	有	1	0	医師
12月21日 15時30分～17時	附属病院11階西病棟	高変の勉強会	ハーシム	有	5	0	看護師
12月21日 18時～19時	卒後臨床研修センター	手技向上のため	Eコー	有	1	0	医師
12月26日 14時～17時	附属病院CCU	AGLSデモンストレーション	ハーシム	有	3	0	看護師
12月27日 16時～28日 21時	附属病院10階東病棟	高変の勉強会	レサリアン1体	有	5	0	看護師

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用の内訳	計	
					学内	学外	
1月5日 14時～17時	医学部5年生	練習	血圧計1台	有	2	0	学生
1月6日 11時～12時	卒後臨床研修センター	内視鏡手術練習	内視鏡、マニピュレーター		3	0	医師
1月6日 15時～10日 13時	医療安全推進部	急変時対応トレーニング講習会	救急ケアシミュレーター	有	8	15	23
1月11日 9時～3月5日 17時	看護部	精脈留置針挿入研修	新型精脈採血シミュレーター“シンジョー”	有	350	0	350
1月11日 13時～16時	教育研究開発センター	和歌山SIPの会		有	6	8	14
1月12日 9時～16時	看護部管理室	復職支援研修	新型精脈採血シミュレーター“シンジョー”	有	2	2	4
1月12日 18時～21時	医療安全推進部	初期研修実技講習会	胸部ドレーンシミュレーター		10	0	10
1月16日 10時～23日 12時	附属病院9階西病棟	研修	レサリアン1体、バックバルブマスク1個、挿管セット	有	5	0	看護師
1月17日 16時～17時30分	第二内科	研修医の勉強	内視鏡、マニピュレーター		3	0	3
1月19日 15時～18時	看護部	新人研修	レサリアン6体、AEDトレーナー6台		40	0	40
1月20日 17時～19日 18時	和医大臨床技能サークル	勉強会	心音聴診シミュレーター“イコロ”、肺音聴診シミュレーター“ミスターラング”	有	10	0	10
1月23日 16時～24日 13時	附属病院11階西病棟	急変対応の練習	レサリアン1体、バックバルブマスク1個、挿管セット		6	0	6
1月25日 9時～18時	看護部	研修	救急ケアシミュレーター、生体情報モニタ、人工呼吸器		40	0	40
1月26日 17時～21時30分	附属病院5階西病棟	勉強会の準備	ハーシム、除細動機、生体情報モニタ、バックバルブマスク、挿管セット		3	0	3
1月26日 17時30分～19時	附属病院10階東病棟	急変の勉強会	レサリアン1体、バックバルブマスク1個、挿管セット	有	10	0	10
1月27日 16時～29日 18時	日本循環器学会近畿支部	AHA-ACLSプロバイダーコース	ハーシム、レサリアン6体、AEDトレーナー6台		5	10	15
1月27日 10時～31日 16時	附属病院3階西病棟	研修	レサリアン1体、バックバルブマスク1個、挿管セット	有	5	0	5

使用申請件数(12月) 24件 260人 65人 325人

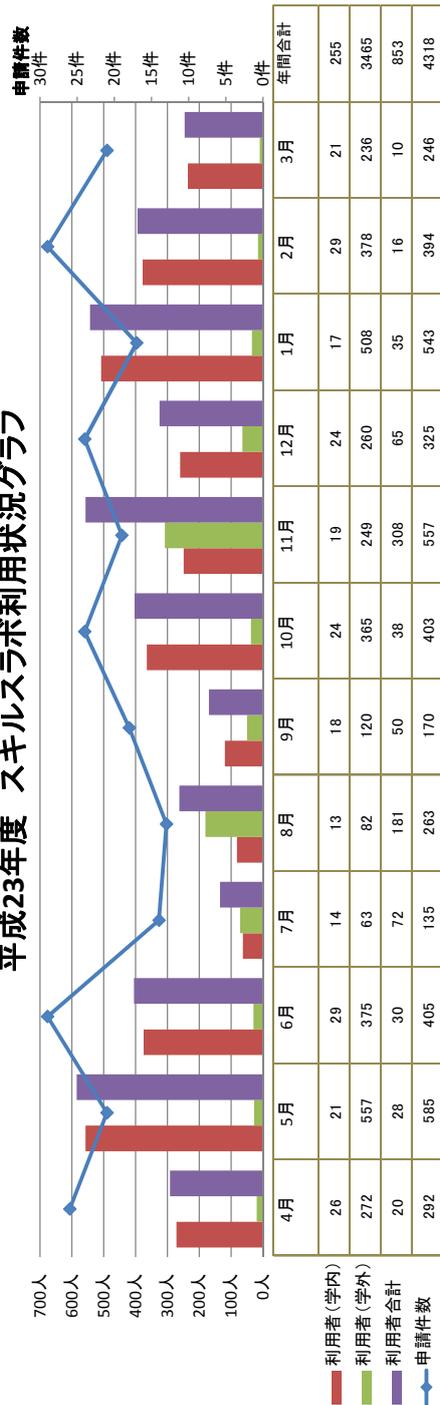
使用申請件数(1月) 17件 508人 35人 543人

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用の内訳	計	
					学内	学外	
2月1日 16時30分～21時	附属病院5階西病棟	勉強会	レサリアン1体、挿管セット、バックバルブマスク	有	3	0	看護師
2月1日 17時～19時30分	看護部	研修	ナーシングアン2体		25	0	看護師
2月1日 17時～21時	附属病院6階西病棟	練習	ハードシム	有	4	0	看護師
2月2日 11時～13時	第二内科	練習	大腸内視鏡シミュレーター、内視鏡		1	0	医師
2月2日 13時30分～15時	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	マーガジンシミュレーター、内視鏡		6	0	医師
2月3日 11時～12時	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	マーガジンシミュレーター、内視鏡		1	0	医師
2月6日 9時～17時	附属病院7階東病棟	OJT	ペビーアン1体	有	27	0	看護師
2月6日 10時～7日 16時	附属病院9階西病棟	研修	レサリアン1体、バックバルブマスク、挿管セット	有	5	0	看護師
2月6日 14時～16時	附属病院5階西病棟	ACL勉強会	ハードシム、バックバルブマスク、挿管セット		3	0	看護師
2月8日 14時～16時	和歌山SPの会	ACL勉強会	内視鏡、マーガジンシミュレーター、内視鏡シミュレーター“アキュタツチ”		2	0	医師
2月9日 13時～14時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	レサリアン6体、AEDトレーナー-6台		40	0	看護師
2月9日 15時30分～18時	看護部	看護部研修	レサリアン1体、バックバルブマスク1個、挿管セット	有	5	0	看護師
2月10日 10時～15日 17時	附属病院9階西病棟	研修	レサリアン1体、バックバルブマスク	有	50	0	医師
2月10日 10時～13日 9時	神経内科	和歌山神経難病医療ネットワーク研修会	診察台	有	0	0	医師
2月10日 15時～13日 15時	附属病院11階西病棟	急変時対応の練習	レサリアン1体、挿管セット、バックバルブマスク	有	7	0	看護師
2月14日 15時～29日 17時	附属病院11階西病棟	急変時対応の練習	レサリアン1体、挿管セット、バックバルブマスク	有	7	0	看護師
2月15日 12時～17日 16時	附属病院CCU	ACLSデモンストレーション	ハードシム	有	3	0	看護師
2月15日 13時～4月16日 17時	附属病院7階東病棟	在宅指導DVD作成	新生原糖生シミュレーター1体、ペビーアン1体、携帯用小型吸引器1台	有	30	0	看護師
2月16日 16時～19時	和医大臨床技能サークル	勉強会	CVC穿刺シミュレーター、エコー	有	15	0	学生
2月17日 17時～21時	5階西病棟	ACLS勉強会練習	ハードシム、バックバルブマスク、挿管セット		3	0	看護師
2月20日 12時～21日 17時	附属病院CCU	ACLSデモンストレーション	ハードシム	有	3	0	看護師
2月20日 12時～17時	卒後臨床研修センター	手順の確認	スキルスラボDVD(CVC手技)	有	1	0	看護師
2月22日 14時～16時	教育研究開発センター	和歌山SPの会		有	6	8	医師
2月24日 8時50分～2月29日 17時	医学部4年生講義	臨床実習入門	心音聴診シミュレーター“イチロー”、肺音聴診シミュレーター“ミスターラング”、直腸診シミュレーター、導尿モデル、採血シミュレーター、眼底診シミュレーター、耳の診察シミュレーター		100	0	学生
2月24日 17時～21時	5階西病棟	ACL勉強会の練習	ハードシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	3	0	看護師
2月27日 12時～17時	附属病院CCU	ACLSデモンストレーション	ハードシム、バックバルブマスク	有	3	0	看護師
2月27日 16時～21時	6階西病棟	学習会	レサリアン(全身タイプ)1体、レサリアン2体、気道管理トレーナー、バックバルブマスク	有	15	0	看護師
2月27日 16時～29日 17時	第一内科	臨床実習入門	スキルスラボDVD(心音、呼吸音、乳房触診)	有	1	0	医師
2月29日 17時～21時	附属病院5階西病棟	ACL勉強会の練習	ハードシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	3	0	看護師

使用申請件数(2月) 29件 378人 16人 394人

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
					使用者の内訳	計	
					学内	学外	
3月1日 8時50分～14日 17時	医学部4年生講義	臨床実習入門	心音聴診シミュレーター“イチロー”、肺音聴診シミュレーター“ミスターラング”、直腸診シミュレーター、導尿モデル、採血シミュレーター、眼底診察シミュレーター、耳の診察シミュレーター		100	0	100 学生
3月1日 17時～5日 17時	附属病院5階西病棟	ACLS勉強会の練習	ハートシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	3	0	3 看護師
3月2日 16時～9日 16時	附属病院9階東病棟	練習	レザシアン1体、バックバルブマスク、挿管セット	有	3	0	3 看護師
3月7日 15時～21時	医療安全推進室	スキルスラボレクチャーシリーズ(ギブス巻)	外科剪刀4個、ゴミ箱		15	0	15 医師
3月7日 13時～9日 17時	附属病院11階西病棟	高変時対応の練習	ハートシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	7	0	7 看護師
3月8日 9時～16時	看護部	復職支援研修	採血シミュレーター“シンジョー”	有	3	0	3 看護師
3月9日 9時～13日 17時	附属病院8階東病棟	勉強会	レザシアン、挿管セット、バックバルブマスク	有	10	0	10 看護師
3月12日 13時～19日 17時	附属病院11階西病棟	練習	ハートシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	7	0	7 看護師
3月13日 13時～18時	卒後臨床研修センター	練習	腹腔鏡シミュレーター		1	0	1 医師
3月13日 16時～17時30分	第二内科	内視鏡手技練習	内視鏡シミュレーター“アキタツチ”		3	0	3 医師
3月16日 13時～17日 9時	医学部4年生	勉強	打鍵器、音叉、水銀血圧計、ペンライト	有	1	0	1 学生
3月16日 16時～22時	附属病院9階東病棟	練習	レザシアン、挿管セット、バックバルブマスク、エアウェイトレーニングシステム、支柱台		3	0	3 看護師
3月19日 16時～22時	附属病院9階東病棟	練習	レザシアン、挿管セット、バックバルブマスク、エアウェイトレーニングシステム、支柱台		3	0	3 看護師
3月19日 17時～21日 12時	附属病院11階西病棟	高変時対応の練習	ハートシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	7	0	7 看護師
3月21日 9時30分～28日 17時	附属病院NICU	静脈注射手技獲得のため	採血シミュレーター“シンジョー”	有	27	0	27 看護師
3月21日 16時～22時	附属病院9階東病棟	練習	ハートシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	3	0	3 看護師
3月22日 17時～26日 9時	附属病院12階東病棟	勉強会	ハートシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	10	0	10 看護師
3月24日 9時～25日 19時	麻酔科、日本ACLS協会和歌山トレーニングサイト	心肺蘇生法講習会	レザシアン8体、リトルジュニア7体、ペギーアン7体、チャョーキングチャャーリー2体、AEDトリーナー8台	有	15	10	25 医師
3月26日 9時～27日 17時	附属病院7階西病棟	1年目看護師に対する指導	ハートシム	有	6	0	6 看護師
3月28日 9時～30日 17時	附属病院11階西病棟	高変時対応の練習	ハートシム、バックバルブマスク、挿管セット	有	7	0	7 看護師
3月29日 11時20分～12時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡手技練習	内視鏡シミュレーター“アキタツチ”、上部内視鏡、マーゲンシミュレーター		2	0	2 医師
			使用申請件数(3月) 21件	21件	236人	10人	246人
			使用申請件数(累計) 255件	255件	3465人	853人	4318人

平成23年度 スキルラボ利用状況グラフ



わりんぎ（和医大臨床技能サークル）の活動

平成 22 年度に教育研究開発センターと学生 BLS サークル合同で、1 年生から 4 年生までを対象にシミュレーターを用いた臨床技能教育を行うサークルを開設しました。放課後にスキルスラボにて勉強会を行いました。

毎月 1 回 17 時～19 時にスキルスラボにて開講しています。最初に講義を聞いた後、シミュレーターや血圧計などを使用し、実際に手技を行います。

平成 23 年度活動記録

開講日時	内容
平成 23 年 9 月 28 日	オリエンテーション
平成 23 年 10 月 17 日	静脈採血法
平成 23 年 10 月 28 日	静脈採血法
平成 23 年 11 月 14 日	バイタル ～血圧計の使い方と血圧測定の練習～
平成 23 年 12 月 16 日	外科縫合手技
平成 24 年 1 月 20 日	心音・呼吸音



平成 23 年度は『わりんぎ』に参加した学生に『臨床技能手技認定証』を発行しました。プログラムを受講する毎に認定シールを受け取れます。学習の進捗状況などが分かり好評です。



受講認定証

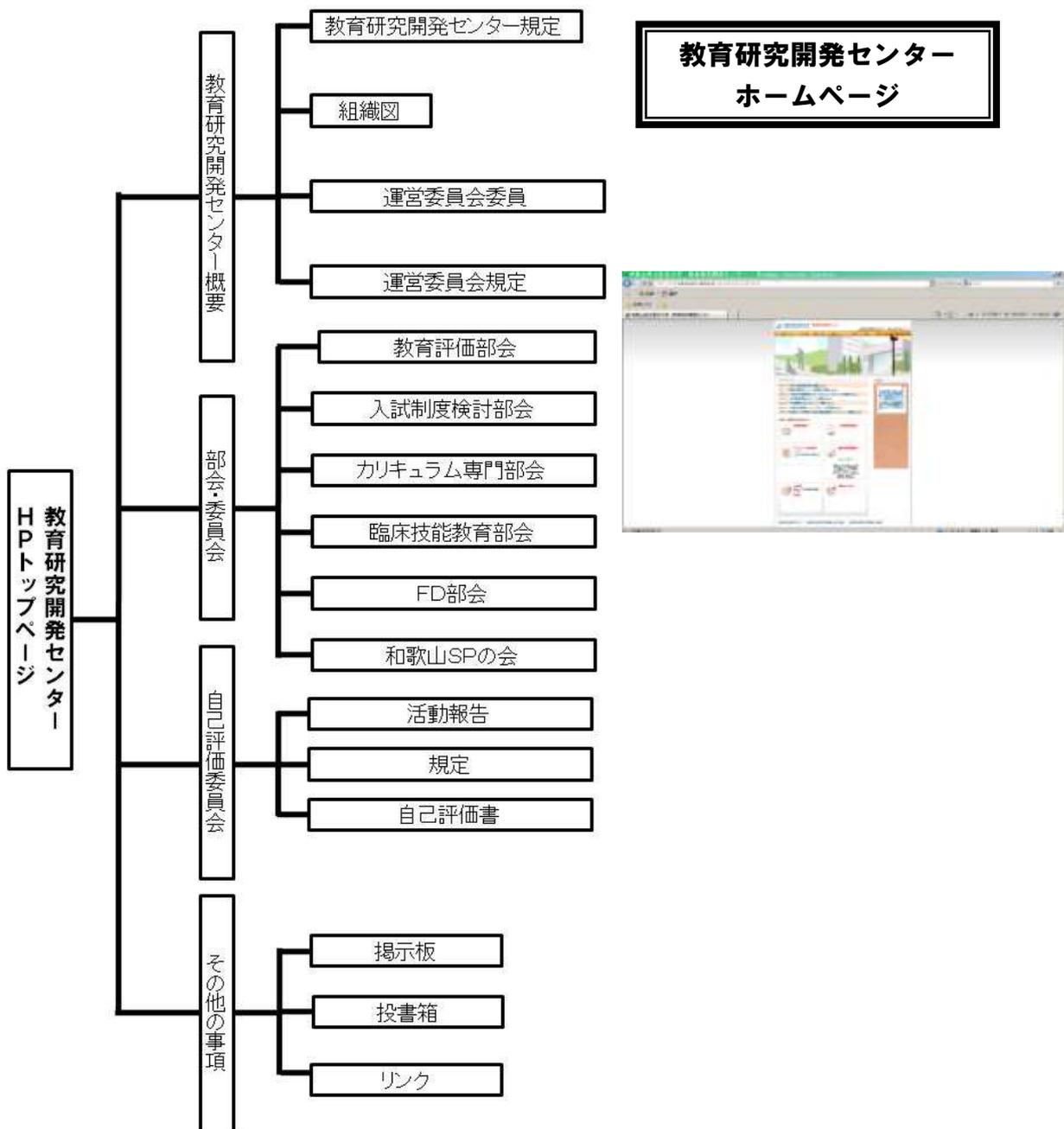


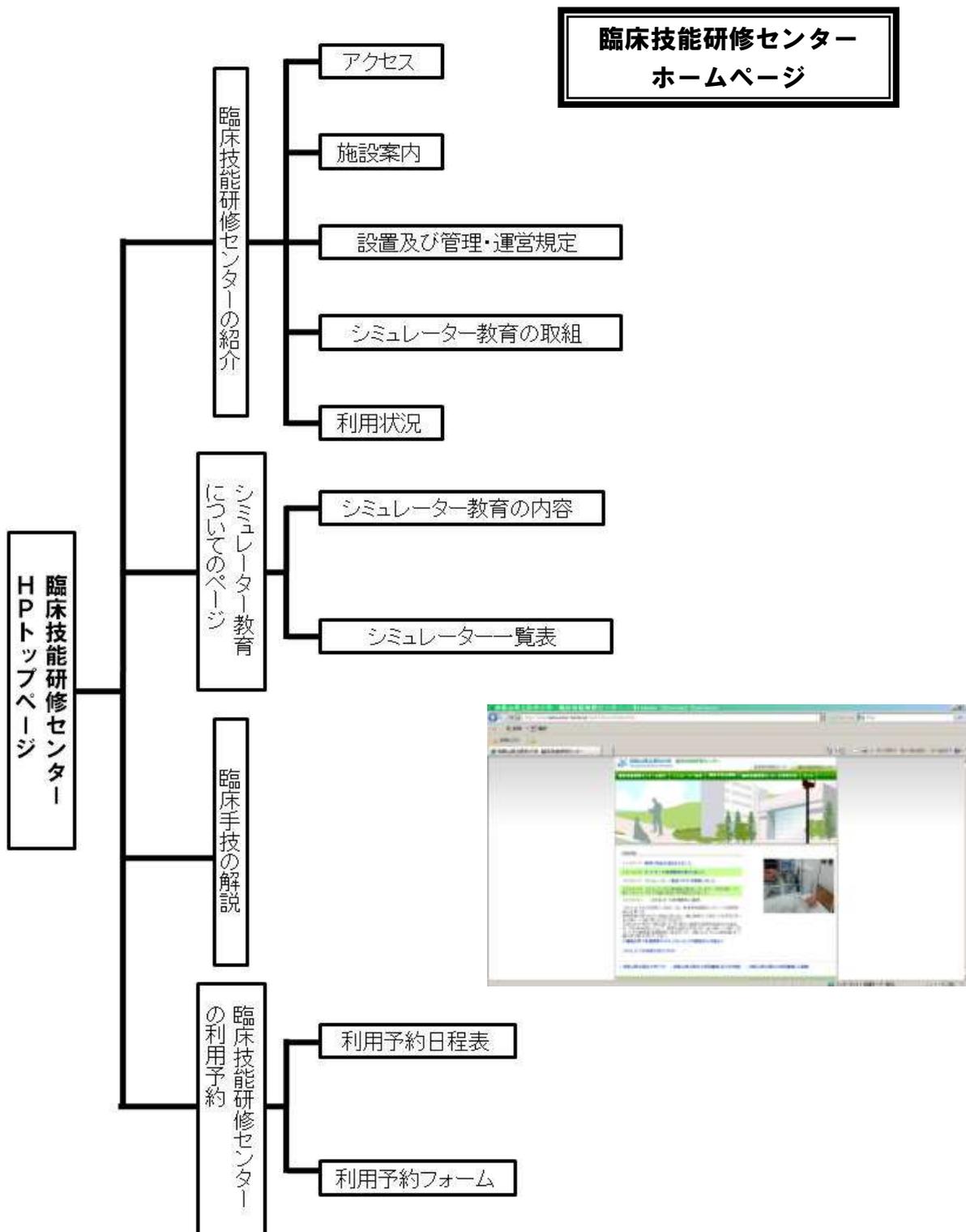
認定シール貼付面

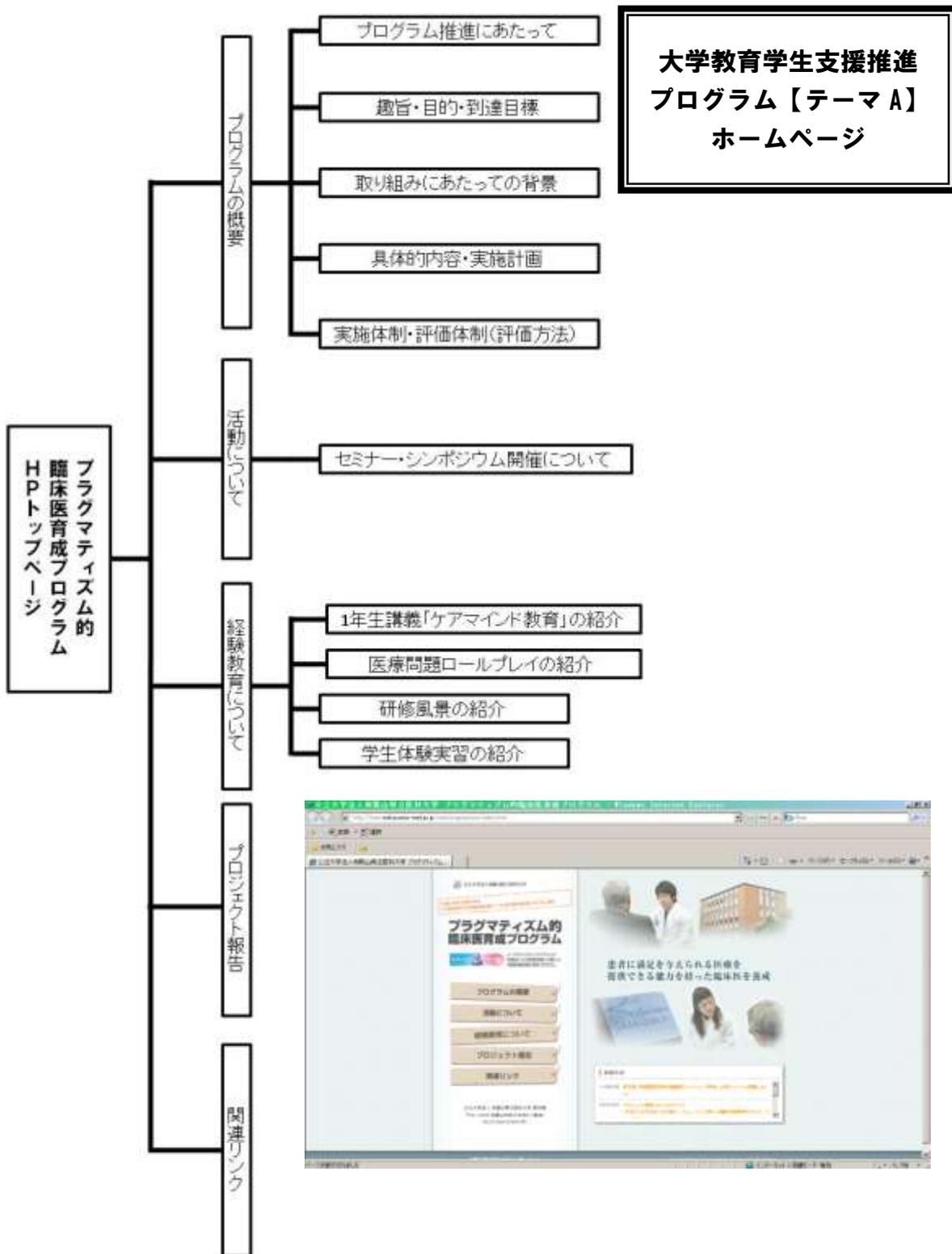
ホームページについて

教育研究開発センターでは下記のホームページの運営、管理を行っています。

- 教育研究開発センターホームページ
- 臨床技能研修センターホームページ
- 大学教育学生支援推進事業【テーマ A】 取組紹介ホームページ







平成 24 年 9 月 発行

和歌山県立医科大学 教育研究開発センター

〒641-8509

和歌山市紀三井寺 811 番地 1

電 話 : 073-441-0813(0815)

F A X : 073-441-0814

ホームページ <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/develop/index.html>

e - m a i l cerd@wakayama-med.ac.jp